

| | | | | |
|--------|---------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | アジア研究 I | 前期 | 火 3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -仲里 効 | 1年 | 授業終了後に教室で受け付けます。 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>入門的な内容になるが、植民地主義、サンフランシスコ体制、そして二つの戦争（朝鮮戦争とベトナム戦争）を取り上げ、アジアと日本／沖縄の過去と現在を決定づけた出来事の意味を再考していく。</p> | <p>私たちはどこから来て、どこへ行くのかをつねに意識した内容になります。授業自体がアジアに対する新しい認識の窓を開いていく旅のような経験になればなおよいでしょう。</p> |
| 到達目標 | <p>アジアと日本／沖縄の関係史の起点にして原点への理解の入口を発見する。アジアと日本の結節点にして交差点でもある沖縄の位置の認識へと至る。</p> | |

| | | | |
|----------------|--|---|--------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 近代日本の植民地主義①（琉球処分と台湾「領有」） | 参考文献①と配布プリント |
| | 2 | 近代日本の植民地主義②（韓国併合と中国侵略） | 同上 |
| | 3 | 近代日本の植民地主義③（南洋群島と委任統治） | 同上 |
| | 4 | 大日本帝国の崩壊とポツダム宣言 | プリント |
| | 5 | 「サンフランシスコ体制とは何か」①（「朝鮮」処理をめぐって） | 参考文献②と配布プリント |
| | 6 | 「サンフランシスコ体制とは何か」②（「台湾」処理をめぐって） | 同上 |
| | 7 | 「サンフランシスコ体制とは何か」③（「千島」処理をめぐって） | 同上 |
| | 8 | 「サンフランシスコ体制とは何か」④（「南洋群島」「南沙・西沙諸島」処理をめぐって） | 同上 |
| | 9 | 「サンフランシスコ体制とは何か」⑤（「琉球」処理をめぐって） | 同上 |
| | 10 | アジアの戦争（朝鮮戦争）① | プリント |
| | 11 | アジアの戦争（朝鮮戦争）② | 同上 |
| | 12 | アジアの戦争（ベトナム戦争）① | 参考文献③の第1部 |
| | 13 | アジアの戦争（ベトナム戦争）② | 参考文献⑤の序章・11章 |
| 14 | アジアの戦争（ベトナム戦争）③ | 参考文献⑤の6章・8章 | |
| 15 | ベトナム戦争と沖縄① | 参考文献④の第4章 | |
| 16 | ベトナム戦争と沖縄② | 同上と配布プリント | |
| テキスト・参考文献・資料など | <p>テキストは指定しない。随時配布するプリントを使いながら進めるが、以下の文献を参考にする。①「ポストコロニアル」小森陽一（著）岩波書店②「分割された領土」進藤栄一（著）岩波書店（現代文庫）③「ベトナム戦争と平和」石川文洋（著）岩波書店（新書）④「沖縄の70年」石川文洋（著）岩波書店（新書）⑤「ベトナム報道」日野啓三（著）講談社（文芸文庫）</p> | | |
| 学びの手立て | <p>履修の心構え 毎回出欠確認を行う。欠席した場合は翌週まで出欠届を提出すること。配布したプリントは常時持参すること。</p> | | |
| 評価 | <p>レポート（70%）期末提出を原則にするが、中間にも課す場合がある。 平常点（30%）無断欠席が5回を越えたときは原則として「不可」となる。</p> | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>この授業で獲得したアジアに対する基礎的な理解から、多様な課題を見つけ出し、同時に、現実アジアで生起する諸問題へ対応していく能力を高めていく。</p> |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|--------|------|-------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | アジア研究Ⅱ | 後期 | 火3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -仲里 効 | 1年 | 授業終了後に教室にて受け付けます。 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい 映像と文学作品を通してアジアの近現代の光と影について入門的な視点を培う。そのために＜台湾＞や＜香港＞、そして＜在日＞などの周縁地域の植民地体験と冷戦期の分断を生きた体験からポストコロニアルな身体まで探訪していく。 | メッセージ 私たちはどこから来て、どこへ行くのかをつねに意識した内容になります。＜方法としてのアジア＞を探し出していく旅のような経験になればなおよいでしょう。 |
| | 到達目標 中心ではなく周辺から、＜影のアジア＞から眺めると歴史の風景が違った見え方をすることを理解する。歴史認識にとってく見ること、つまり映像資料が果す意味と役割を発見する。 | |

| | | | |
|-------|---|--------------------|-----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | アジアの植民地地図 | 配布プリントを読むこと |
| | 2 | ポストコロニアル香港① | 参考文献①の第1章 |
| | 3 | ポストコロニアル香港② | 参考文献①の第2章 |
| | 4 | ブルース・リーの身体表現＜功夫＞ | 映画『ドラゴン怒りの鉄拳』 |
| | 5 | ジャッキー・チェンの身体表現＜酔拳＞ | 映画『レッド・ドラゴン』 |
| | 6 | ポストコロニアル台湾① | 参考文献②の第2章・3章 |
| | 7 | ポストコロニアル台湾② | 参考文献②の第4章・7章 |
| | 8 | 『非情城市』と＜2・28事件＞① | 映画『非情城市』と配布プリント |
| 9 | 『非情城市』と＜2・28事件＞② | 同上 | |
| 10 | 李香蘭と＜満州＞ | 参考文献③の第3章 | |
| 11 | 李香蘭と＜大陸3部作＞ | 同上 | |
| 12 | ＜南京＞という問い | 配布プリントを読むこと | |
| 13 | 金時鐘と＜植民地体験・在日＞「クレメンタインの歌」① | 参考文献④第1章 | |
| 14 | 金時鐘と＜4・3事件＞「クレメンタインの歌」② | 参考文献⑤の第6章 | |
| 15 | 『パッチギ』と＜イムジン河＞ | 映画『パッチギ』と配布プリント | |
| 16 | 『パッチギ』と＜在日＞ | 同上 | |
| | テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。随時配布するプリントを使って進めるが、以下の文献を参考にする。①「香港」倉田徹・張或啓（著）岩波書店（新書）②「台湾」若林正文（著）筑摩書房（ちくま新書）③「李香蘭と原節子」四方田犬彦（著）岩波書店（現代文庫）④「『在日』のはざま」金時鐘（著）平凡社（文庫）⑤「朝鮮と日本に生きる」金時鐘（著）岩波書店（新書）。 | | |
| | 学びの手立て 履修の心構え 毎回出欠確認を行う。欠席した場合は翌週まで出欠届を提出すること。配布したプリントは常時持参すること。 | | |
| | 評価 レポート（70%）期末提出を原則にするが、中間にも課す場合がある。 平常点（30%）無断欠席が5回を越えたときは原則として「不可」となる。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 植民地主義／ポスト植民地主義的な歴史と身体に対する理解から、アジア地域との新しい関係を想像し創造していく能力を高めていく。 |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性 沖縄とも関係の深いアメリカ合衆国について、基礎的な知識を身に付ける。

[/一般講義]

| | | | | |
|--------|--------|------|-----------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | アメリカ研究 | 後期 | 月5 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 佐藤 学 | 1年 | sato@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい この科目は、アメリカ合衆国を、多面的・多層的に見ていくための基礎を学び取ることを目的とする。良く知っているはずの、最も重要な国であるが、あなたは、どれだけ「本当の」アメリカ合衆国を知っていますか？担当教員は、米国政治を専攻する政治学研究者であるが、この科目では、社会・文化も含めた幅広い題材を使って、アメリカ合衆国を理解するための視座を提供するつもりである。 | メッセージ 知っているようで知らないアメリカ合衆国のホントの姿を知ろう |
| | 到達目標 単純な先入観を超えたアメリカ観を得るための基礎を学ぶ。 | |

| | | | |
|--|-----------------|--------------------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 歴史の概要と国の形「アメリカ合衆国の光と影」 | |
| | 2 | 政治の姿：大統領と連邦議会、連邦政府と州政府、民主党と共和党 | |
| | 3 | 政治の姿：アメリカ政治の現在 | |
| | 4 | アメリカ経済はなぜ「強い」のか：経済と産業の姿 | |
| | 5 | アメリカ経済はなぜ「強い」のか：政府の役割、大学の役割 | |
| | 6 | アメリカで暮らす（1）：住宅 | |
| | 7 | アメリカで暮らす（2）：教育 | |
| | 8 | アメリカで暮らす（3）：医療・生活環境 | |
| | 9 | アメリカで暮らす（4）：食生活ー1 | |
| | 10 | アメリカで暮らす（5）：食生活ー2 | |
| | 11 | アメリカのメディア：新聞、雑誌、TV, インタネット | |
| | 12 | 公民権運動：アメリカ合衆国の栄光 | |
| | 13 | 軍の国、銃の国：安全保障、国内治安 | |
| 14 | 日米関係を考える | | |
| 15 | 世界の中のアメリカ合衆国：外交 | | |
| 16 | | | |
| テキスト・参考文献・資料など 使用しない。授業レジュメと資料を配布する。 講義内で適宜紹介する。 | | | |
| 学びの手立て 新聞、雑誌で、アメリカ関連の記事を読むこと。 | | | |
| 評価 レポートを課す。出題については、事前に説明する。 | | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 日常生活、勉学の中で、アメリカに関する事柄をより明瞭に理解できる基礎知識を身に付ける。 |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性 アラブ地域に対する理解を通じて、大学生としての必要な教養を深めていく。

[/一般講義]

| | | | | |
|--------|-----------------|------|--------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | アラブ研究Ⅰ | 前期 | 水3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | エルサムニ イブラヒム アリー | 1年 | 原則、授業終了後に教室で受け付けます | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 「アラブの文化」というテーマで、アラブの文化、歴史、アラブ社会の現状について紹介したいと思います。まず、イスラム教が起こる以前のアラブの国々の状況を取り上げます。それから、イスラム教が起こってから現在までの、アラブ社会の様々な生活場面について述べる予定です。あわせて、アラビア語の初歩も講義したいと思います。 | グローバル化が進む現在、アラブ地域を理解はすることは大変重要になってきました。本講義は初学者にとってもわかりやく面白く教えます。この講義をきっかけにアラブ文化・社会に興味をもち理解を深めると嬉しいです。わからないことがあれば気軽に質問してください。 |
| 到達目標 | イスラム教を正しく理解できる。 アラブの文化・社会を正しく理解できる。 | |

| | | | |
|--------|---|---|------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義ガイダンス | 授業の予習・復習を行うこと |
| | 2 | イスラム教が起こる前のアラブ社会（背景） | 配布資料を必ず読んで理解すること |
| | 3 | イスラム教の発生Ⅰ（発生した状況、イスラム教の経典コーラン） | |
| | 4 | イスラム教の発生Ⅱ（ムハンマド予言者の教え「スンナ」、アラブの22カ国） | |
| | 5 | イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅰ（結婚する前の男女の関係） | |
| | 6 | イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅱ（結婚するまでの段階） | |
| | 7 | イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅲ（婚姻届の内容） | |
| | 8 | イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅳ（披露宴、衣装）【中間テスト】 | |
| | 9 | イスラム教後のアラブ社会への影響 出産（男・女が生まれた場合の違い、儀式等） | |
| | 10 | イスラム教後のアラブ社会への影響 離婚Ⅰ（離婚の意味・段階） | |
| | 11 | イスラム教後のアラブ社会への影響 離婚Ⅱ（離婚の原因、慰謝料等） | |
| | 12 | イスラム教後のアラブ社会への影響 女性のあり方（母親、主婦、妻として） | |
| | 13 | イスラム教後のアラブ社会への影響 衣食住（アルコールと豚肉が禁止されている理由等） | |
| 14 | イスラム教後のアラブ社会への影響 日常生活（紅茶と水たばこの雑談会、集会、礼拝等） | | |
| 15 | アラビア語Ⅰ（アラビア語の特徴、アルファベット等） | | |
| 16 | アラビア語Ⅱ（挨拶）【期末テスト】 | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など 特になし。必要に応じてコピー資料を配布する。また、ビデオ等の画像等も使用する。 | | |
| 学びの手立て | 講義の私語、居睡り等については注意する。 | | |
| 評価 | 中間テストと期末テスト実施し、出席状況と受講態度で評価する。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 関連科目としてアラブ研究Ⅱを受講し、アラブ地域の理解を深め、卒業後もこれらの地域に関心をもつ。 |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性 アラブ地域に対する理解を通じて、大学生としての必要な教養を深めていく。

[/一般講義]

| | | | | |
|--------|-----------------|------|--------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | アラブ研究Ⅰ | 前期 | 火3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | エルムニイ イブラヒム アリー | 1年 | 原則、授業終了後に教室で受け付けます | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 「アラブの文化」というテーマで、アラブの文化、歴史、アラブ社会の現状について紹介したいと思います。まず、イスラム教が起こる以前のアラブの国々の状況を取り上げます。それから、イスラム教が起こってから現在までの、アラブ社会の様々な生活場面について述べる予定です。あわせて、アラビア語の初歩も講義したいと思います。 | グローバル化が進む現在、アラブ地域を理解はすることは大変重要になってきました。本講義は初学者にとってもわかりやく面白く教えます。この講義をきっかけにアラブ文化・社会に興味をもち理解を深めると嬉しいです。わからないことがあれば気軽に質問してください。 |
| 到達目標 | イスラム教を正しく理解できる。 アラブの文化・社会を正しく理解できる。 | |

| | | | |
|--------|---|---|------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義ガイダンス | 授業の予習・復習を行うこと |
| | 2 | イスラム教が起こる前のアラブ社会（背景） | 配布資料を必ず読んで理解すること |
| | 3 | イスラム教の発生Ⅰ（発生した状況、イスラム教の経典コーラン） | |
| | 4 | イスラム教の発生Ⅱ（ムハンマド予言者の教え「スンナ」、アラブの22カ国） | |
| | 5 | イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅰ（結婚する前の男女の関係） | |
| | 6 | イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅱ（結婚するまでの段階） | |
| | 7 | イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅲ（婚姻届の内容） | |
| | 8 | イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅳ（披露宴、衣装）【中間テスト】 | |
| | 9 | イスラム教後のアラブ社会への影響 出産（男・女が生まれた場合の違 | |
| | 10 | イスラム教後のアラブ社会への影響 離婚Ⅰ（離婚の意味・段階） | |
| | 11 | イスラム教後のアラブ社会への影響 離婚Ⅱ（離婚の原因、慰謝料等） | |
| | 12 | イスラム教後のアラブ社会への影響 女性のあり方（母親、主婦、妻として） | |
| | 13 | イスラム教後のアラブ社会への影響 衣食住（アルコールと豚肉が禁止されている理由等） | |
| 14 | イスラム教後のアラブ社会への影響 日常生活（紅茶と水たばこの雑談会、集会、礼拝等） | | |
| 15 | アラビア語Ⅰ（アラビア語の特徴、アルファベット等） | | |
| 16 | アラビア語Ⅱ（挨拶）【期末テスト】 | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など 特になし。必要に応じてコピー資料を配布する。また、ビデオ等の画像等も使用する。 | | |
| 学びの手立て | 講義の私語、居睡り等については注意する。 | | |
| 評価 | 中間テストと期末テスト実施し、出席状況と受講態度で評価する。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 関連科目としてアラブ研究Ⅱを受講し、アラブ地域の理解を深め、卒業後もこれらの地域に関心をもつ。 |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性 アラブ地域に対する理解を通じて、大学生としての必要な教養を深めていく。

[/一般講義]

| | | | | |
|--------|-----------------|------|--------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | アラブ研究Ⅰ | 前期 | 木2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | エルサムニ イブラヒム アリー | 1年 | 原則、授業終了後に教室で受け付けます | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 「アラブの文化」というテーマで、アラブの文化、歴史、アラブ社会の現状について紹介したいと思います。まず、イスラム教が起こる以前のアラブの国々の状況を取り上げます。それから、イスラム教が起こってから現在までの、アラブ社会の様々な生活場面について述べる予定です。あわせて、アラビア語の初歩も講義したいと思います。 | グローバル化が進む現在、アラブ地域を理解はすることは大変重要になってきました。本講義は初学者にとってもわかりやく面白く教えます。この講義をきっかけにアラブ文化・社会に興味をもち理解を深めると嬉しいです。わからないことがあれば気軽に質問してください。 |
| 到達目標 | イスラム教を正しく理解できる。 アラブの文化・社会を正しく理解できる。 | |

| | | | |
|-----------|---|---|------------------|
| 学びの 実践 | 学びのヒント | 授業計画 | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義ガイダンス | 授業の予習・復習を行うこと |
| | 2 | イスラム教が起こる前のアラブ社会（背景） | 配布資料を必ず読んで理解すること |
| | 3 | イスラム教の発生Ⅰ（発生した状況、イスラム教の経典コーラン） | |
| | 4 | イスラム教の発生Ⅱ（ムハンマド予言者の教え「スンナ」、アラブの22カ国） | |
| | 5 | イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅰ（結婚する前の男女の関係） | |
| | 6 | イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅱ（結婚するまでの段階） | |
| | 7 | イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅲ（婚姻届の内容） | |
| | 8 | イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅳ（披露宴、衣装）【中間テスト】 | |
| 9 | イスラム教後のアラブ社会への影響 出産（男・女が生まれた場合の違い、儀式等） | | |
| 10 | イスラム教後のアラブ社会への影響 離婚Ⅰ（離婚の意味・段階） | | |
| 11 | イスラム教後のアラブ社会への影響 離婚Ⅱ（離婚の原因、慰謝料等） | | |
| 12 | イスラム教後のアラブ社会への影響 女性のあり方（母親、主婦、妻として） | | |
| 13 | イスラム教後のアラブ社会への影響 衣食住（アルコールと豚肉が禁止されている理由等） | | |
| 14 | イスラム教後のアラブ社会への影響 日常生活（紅茶と水たばこの雑談会、集会、礼拝等） | | |
| 15 | アラビア語Ⅰ（アラビア語の特徴、アルファベット等） | | |
| 16 | アラビア語Ⅱ（挨拶）【期末テスト】 | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など | 特になし。必要に応じてコピー資料を配布する。また、ビデオ等の画像等も使用する。 | |
| 学びの手立て | 講義の私語、居睡り等については注意する。 | | |
| 評価 | 中間テストと期末テスト実施し、出席状況と受講態度で評価する。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 関連科目としてアラブ研究Ⅱを受講し、アラブ地域の理解を深め、卒業後もこれらの地域に関心をもつ。 |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性 アラブ地域に対する理解を通じて、大学生としての必要な教養を深めていく。

[/一般講義]

| | | | | |
|--------|-----------------|------|--------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | アラブ研究Ⅱ | 後期 | 木2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | エルムニイ イブラヒム アリー | 1年 | 原則、授業終了後に教室で受け付けます | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 「アラブの文化」というテーマで、アラブの文化、歴史、アラブ社会の現状について紹介したいと思います。まず、イスラム教が起こる以前のアラブの国々の状況を取り上げます。それから、イスラム教が起こってから現在までの、アラブ社会の様々な生活場面について述べる予定です。あわせて、アラビア語の初歩も講義したいと思います。 | グローバル化が進む現在、アラブ地域を理解はすることは大変重要になってきました。本講義は初学者にとってもわかりやく面白く教えます。この講義をきっかけにアラブ文化・社会に興味をもち理解を深めると嬉しいです。わからないことがあれば気軽に質問してください。 |
| 到達目標 | イスラム教を正しく理解できる。 アラブの文化・社会を正しく理解できる。 | |

| | | | |
|--------|--------------------------------|--|------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | 授業計画 | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義ガイダンス | 授業の予習・復習を行うこと |
| | 2 | イスラム教が起こる前のアラブ社会（背景） | 配布資料を必ず読んで理解すること |
| | 3 | イスラム教の発生Ⅰ（発生した状況、イスラム教の経典コーラン） | |
| | 4 | イスラム教の発生Ⅱ（ムハンマド予言者の教え「スンナ」、アラブの22カ国） | |
| | 5 | イスラム教後のアラブ社会への影響 生活習慣Ⅰ（病気の時、心の支え、占い） | |
| | 6 | イスラム教後のアラブ社会への影響 生活習慣Ⅱ（死亡）、アラブの祭りや祝い | |
| | 7 | イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの祭りや祝い（断食、ラマダン等） | |
| | 8 | イスラム教後のアラブ社会への影響 文化と教育の関わり 【中間テスト】 | |
| | 9 | イスラム教後のアラブ社会への影響 イスラムと他の宗教Ⅰ（宗教の意味、予言者の数） | |
| | 10 | イスラム教後のアラブ社会への影響 イスラムと他の宗教Ⅱ（各宗教の予言者、聖書） | |
| | 11 | イスラム教後のアラブ社会への影響 一夫多妻とイスラム女性の服装 | |
| | 12 | イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅰ（テロ問題） | |
| | 13 | イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅱ（パレスチナ問題①歴史的背景等） | |
| | 14 | イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅲ（パレスチナ問題②子孫とムゼー） | |
| 15 | アラビア語Ⅰ（アラビア語の特徴、アルファベット等） | | |
| 16 | アラビア語Ⅱ（挨拶）【期末テスト】 | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など | 特になし。必要に応じてコピー資料を配布する。また、ビデオ等の画像等も使用する。 | |
| 学びの手立て | 講義の私語、居眠り等については注意する。 | | |
| 評価 | 中間テストと期末テスト実施し、出席状況と受講態度で評価する。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 関連科目としてアラブ研究Ⅱを受講し、アラブ地域の理解を深め、卒業後もこれらの地域に関心をもつ。 |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性 アラブ地域に対する理解を通じて、大学生としての必要な教養を深めていく。

[/一般講義]

| | | | | |
|--------|-----------------|------|--------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | アラブ研究Ⅱ | 後期 | 火3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | エルムニイ イブラヒム アリー | 1年 | 原則、授業終了後に教室で受け付けます | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 「アラブの文化」というテーマで、アラブの文化、歴史、アラブ社会の現状について紹介したいと思います。まず、イスラム教が起こる以前のアラブの国々の状況を取り上げます。それから、イスラム教が起こってから現在までの、アラブ社会の様々な生活場面について述べる予定です。あわせて、アラビア語の初歩も講義したいと思います。 | グローバル化が進む現在、アラブ地域を理解はすることは大変重要になってきました。本講義は初学者にとってもわかりやく面白く教えます。この講義をきっかけにアラブ文化・社会に興味をもち理解を深めると嬉しいです。わからないことがあれば気軽に質問してください。 |
| 到達目標 | イスラム教を正しく理解できる。 アラブの文化・社会を正しく理解できる。 | |

| | | | |
|-------|---|--|------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義ガイダンス | 授業の予習・復習を行うこと |
| | 2 | イスラム教が起こる前のアラブ社会（背景） | 配布資料を必ず読んで理解すること |
| | 3 | イスラム教の発生Ⅰ（発生した状況、イスラム教の経典コーラン） | |
| | 4 | イスラム教の発生Ⅱ（ムハンマド予言者の教え「スンナ」、アラブの22カ国） | |
| | 5 | イスラム教後のアラブ社会への影響 生活習慣Ⅰ（病気の時、心の支え、占い） | |
| | 6 | イスラム教後のアラブ社会への影響 生活習慣Ⅱ（死亡）、アラブの祭りや祝い | |
| | 7 | イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの祭りや祝い（断食、ラマダン等） | |
| | 8 | イスラム教後のアラブ社会への影響 文化と教育の関わり 【中間テスト】 | |
| | 9 | イスラム教後のアラブ社会への影響 イスラムと他の宗教Ⅰ（宗教の意味、予言者の数） | |
| | 10 | イスラム教後のアラブ社会への影響 イスラムと他の宗教Ⅱ（各宗教の予言者、聖書） | |
| | 11 | イスラム教後のアラブ社会への影響 一夫多妻とイスラム女性の服装 | |
| | 12 | イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅰ（テロ問題） | |
| | 13 | イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅱ（パレスチナ問題①歴史的背景等） | |
| 14 | イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅲ（パレスチナ問題②子孫とムゼー） | | |
| 15 | アラビア語Ⅰ（アラビア語の特徴、アルファベット等） | | |
| 16 | アラビア語Ⅱ（挨拶）【期末テスト】 | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など 特になし。必要に応じてコピー資料を配布する。また、ビデオ等の画像等も使用する。 | | |
| | 学びの手立て 講義の私語、居睡り等については注意する。 | | |
| | 評価 中間テストと期末テスト実施し、出席状況と受講態度で評価する。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 関連科目としてアラブ研究Ⅱを受講し、アラブ地域の理解を深め、卒業後もこれらの地域に関心をもつ。 |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性 アラブ地域に対する理解を通じて、大学生としての必要な教養を深めていく。

[/一般講義]

| | | | | |
|--------|-----------------|------|--------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | アラブ研究Ⅱ | 後期 | 水3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | エルムニー イブラヒム アリー | 1年 | 原則、授業終了後に教室で受け付けます | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 「アラブの文化」というテーマで、アラブの文化、歴史、アラブ社会の現状について紹介したいと思います。まず、イスラム教が起こる以前のアラブの国々の状況を取り上げます。それから、イスラム教が起こってから現在までの、アラブ社会の様々な生活場面について述べる予定です。あわせて、アラビア語の初歩も講義したいと思います。 | グローバル化が進む現在、アラブ地域を理解はすることは大変重要になってきました。本講義は初学者にとってもわかりやく面白く教えます。この講義をきっかけにアラブ文化・社会に興味をもち理解を深めると嬉しいです。わからないことがあれば気軽に質問してください。 |
| 到達目標 | イスラム教を正しく理解できる。 アラブの文化・社会を正しく理解できる。 | |

| | | | |
|-------|---|--|------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義ガイダンス | 授業の予習・復習を行うこと |
| | 2 | イスラム教が起こる前のアラブ社会（背景） | 配布資料を必ず読んで理解すること |
| | 3 | イスラム教の発生Ⅰ（発生した状況、イスラム教の経典コーラン） | |
| | 4 | イスラム教の発生Ⅱ（ムハンマド予言者の教え「スンナ」、アラブの22カ国） | |
| | 5 | イスラム教後のアラブ社会への影響 生活習慣Ⅰ（病気の時、心の支え、占い） | |
| | 6 | イスラム教後のアラブ社会への影響 生活習慣Ⅱ（死亡）、アラブの祭りや祝い | |
| | 7 | イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの祭りや祝い（断食、ラマダン等） | |
| | 8 | イスラム教後のアラブ社会への影響 文化と教育の関わり 【中間テスト】 | |
| | 9 | イスラム教後のアラブ社会への影響 イスラムと他の宗教Ⅰ（宗教の意味、予言者の数） | |
| | 10 | イスラム教後のアラブ社会への影響 イスラムと他の宗教Ⅱ（各宗教の予言者、聖書） | |
| | 11 | イスラム教後のアラブ社会への影響 一夫多妻とイスラム女性の服装 | |
| | 12 | イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅰ（テロ問題） | |
| | 13 | イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅱ（パレスチナ問題①歴史的背景等） | |
| 14 | イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅲ（パレスチナ問題②子孫とムーゼー） | | |
| 15 | アラビア語Ⅰ（アラビア語の特徴、アルファベット等） | | |
| 16 | アラビア語Ⅱ（挨拶）【期末テスト】 | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など 特になし。必要に応じてコピー資料を配布する。また、ビデオ等の画像等も使用する。 | | |
| | 学びの手立て 講義の私語、居睡り等については注意する。 | | |
| | 評価 中間テストと期末テスト実施し、出席状況と受講態度で評価する。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 関連科目としてアラブ研究Ⅱを受講し、アラブ地域の理解を深め、卒業後もこれらの地域に関心をもつ。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|---------------|------|--------------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 海外語学・文化セミナー I | その他 | | 4 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 国際理解科目群担当教員等 | 全学年 | グローバル教育支援センター窓口等 (ircchr@okiu.ac.jp) | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>「海外語学・文化セミナー」は、本学の学生が海外での「語学学習&文化体験プログラム」へ参加することにより、生きた外国語に触れ、国際的視野を広げる機会を得られるように設けられた科目です。夏期・春期休業期間を利用して、本学の国外協定校が提供する各種研修に参加し、自らの語学能力やコミュニケーション能力を向上させ、異文化理解（多文化理解）を深めることを目標とします。</p> | <p>多文化に興味を持ち、理解しようとすることはグローバル化した現代社会で活躍するための基本です。国外協定校での実体験を通し得られる新たな発見や理解がグローバルな視野を築く基礎になり、国際感覚を育むこととなります。</p> |
| 到達目標 | <p>「国外協定校」のアンバサダーになれるように地理・歴史・文化を広く理解し、国外協定校が提供するカリキュラムの体験を通して各自が得た国際感覚・知的理解を言葉で表現できるレベルに至るため、次の目標の達成をめざします。</p> <p>(1) 事前研修への参加を通じて、派遣国・地域に関する基本的な語学・知識を修得することができる。</p> <p>(2) 派遣された協定校における研修を通じて、語学の技能や文化体験での学びを深めることができる。</p> <p>(3) 研修内容を自覚的に内省し、その内容について報告書にまとめることができる。</p> <p>(4) 研修の成果を他者に発信するために、写真展・帰国報告会に積極的に取り組むことができる。</p> | |

| | | | |
|-------|----------------|-------------------------------|-----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 事前研修（本学内） | オリエンテーション |
| | 2 | 事前研修（本学内） | 研修先について調べる |
| | 3 | 事前研修（本学内） | 研修先について調べる |
| | 4 | 事前研修（本学内） | 出発前の確認および手続き |
| | 5 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 6 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 7 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 8 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 9 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 10 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 11 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 12 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 13 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 14 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 15 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 16 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 17 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 18 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 19 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 20 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 21 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 22 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 23 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 24 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 25 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 26 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 27 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 28 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 29 | 帰国報告会、写真展（本学内） | 報告書、報告会、写真展の準備 |
| | 30 | 帰国報告会、写真展（本学内） | 報告書、報告会、写真展の準備 |
| 31 | 帰国報告会、写真展（本学内） | | |

| | |
|-------|--|
| 学 | <p>テキスト・参考文献・資料など 事前研修でも紹介しますが、各自の知的好奇心に応じて図書館やメディアを利用して調べること。</p> |
| 学びの実践 | <p>学びの手立て 履修を考えるに当たり、以下のことを念頭に置いてください。（事前研修・事後報告があります）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的地（国外協定校）の「鼻高さん」になれるように地理、歴史、文化を事前に調べる。 ・協定校が提供する語学・文化セミナーのクラスを実体験して「鼻高さん知識」の確認、修正、追加を行う。 ・帰国後、先輩、後輩や友人に異文化体験を紹介し、自分が感じた事、学んだ事を言語（発表と報告書）で表現する。 <p>※事前研修では受け身ではなく積極的に調べ、現地では日記や写真などの記録を取る。帰国後は、報告会と報告書の提出がある。 （報告書はフォーマットが用意されています。事前研修時に配布します）</p> |
| | <p>評価 到達目標（1）の評価：事前研修への出席（20%）、到達目標（2）の評価：研修先での成績（40%）、到達目標（3）の評価：帰国報告書の提出（25%）、到達目標（4）の評価：写真展・帰国報告会の取組（15%）の合計得点で評価され、「共通科目・国際理解科目群」における「海外語学・文化セミナー」として「4単位」が認定されます。「海外語学・文化セミナー」は「I」～「V」まで設定されていますが、単位認定は原則として数字の小さい科目から順次、認定されます。</p> |
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目 国際感覚を磨くためには「海外語学・文化セミナーI～V」だけでなく関連する語学科目、外国語研究などの事前、継続履修を強く勧める。また、沖縄や日本との関係を更に理解するためにも共通科目だけでなく各学部学科が提供している科目の履修（自由選択科目として）が望ましい。</p> |

| | | | | |
|--------|--------------|------|--------------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 海外語学・文化セミナーⅡ | その他 | | 4 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 国際理解科目群担当教員等 | 全学年 | グローバル教育支援センター窓口等 (ircchr@okiu.ac.jp) | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>「海外語学・文化セミナー」は、本学の学生が海外での「語学学習&文化体験プログラム」へ参加することにより、生きた外国語に触れ、国際的視野を広げる機会を得られるように設けられた科目です。夏期・春期休業期間を利用して、本学の国外協定校が提供する各種研修に参加し、自らの語学能力やコミュニケーション能力を向上させ、異文化理解（多文化理解）を深めることを目標とします。</p> | <p>多文化に興味を持ち、理解しようとすることはグローバル化した現代社会で活躍するための基本です。国外協定校での実体験を通し得られる新たな発見や理解がグローバルな視野を築く基礎になり、国際感覚を育むこととなります。</p> |
| 到達目標 | <p>「国外協定校」のアンバサダーになれるように地理・歴史・文化を広く理解し、国外協定校が提供するカリキュラムの体験を通して各自が得た国際感覚・知的理解を言葉で表現できるレベルに至るため、次の目標の達成をめざします。</p> <p>(1) 事前研修への参加を通じて、派遣国・地域に関する基本的な語学・知識を修得することができる。 (2) 派遣された協定校における研修を通じて、語学の技能や文化体験での学びを深めることができる。 (3) 研修内容を自覚的に内省し、その内容について報告書にまとめることができる。 (4) 研修の成果を他者に発信するために、写真展・帰国報告会に積極的に取り組むことができる。</p> | |

| | | | |
|-------|----------------|-------------------------------|-----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 事前研修（本学内） | オリエンテーション |
| | 2 | 事前研修（本学内） | 研修先について調べる |
| | 3 | 事前研修（本学内） | 研修先について調べる |
| | 4 | 事前研修（本学内） | 出発前の確認および手続き |
| | 5 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 6 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 7 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 8 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 9 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 10 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 11 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 12 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 13 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 14 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 15 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 16 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 17 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 18 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 19 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 20 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 21 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 22 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 23 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 24 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 25 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 26 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 27 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 28 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 29 | 帰国報告会、写真展（本学内） | 報告書、報告会、写真展の準備 |
| | 30 | 帰国報告会、写真展（本学内） | 報告書、報告会、写真展の準備 |
| 31 | 帰国報告会、写真展（本学内） | | |

| | |
|-------|--|
| 学 | <p>テキスト・参考文献・資料など 事前研修でも紹介しますが、各自の知的好奇心に応じて図書館やメディアを利用して調べること。</p> |
| 学びの実践 | <p>学びの手立て 履修を考えるに当たり、以下のことを念頭に置いてください。（事前研修・事後報告があります）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的地（国外協定校）の「鼻高さん」になれるように地理、歴史、文化を事前に調べる。 ・協定校が提供する語学・文化セミナーのクラスを実体験して「鼻高さん知識」の確認、修正、追加を行う。 ・帰国後、先輩、後輩や友人に異文化体験を紹介し、自分が感じた事、学んだ事を言語（発表と報告書）で表現する。 <p>※事前研修では受け身ではなく積極的に調べ、現地では日記や写真などの記録を取る。帰国後は、報告会と報告書の提出がある。 （報告書はフォーマットが用意されています。事前研修時に配布します）</p> |
| | <p>評価 到達目標（1）の評価：事前研修への出席（20%）、到達目標（2）の評価：研修先での成績（40%）、到達目標（3）の評価：帰国報告書の提出（25%）、到達目標（4）の評価：写真展・帰国報告会の取組（15%）の合計得点で評価され、「共通科目・国際理解科目群」における「海外語学・文化セミナー」として「4単位」が認定されます。「海外語学・文化セミナー」は「I」～「V」まで設定されていますが、単位認定は原則として数字の小さい科目から順次、認定されます。</p> |
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目 国際感覚を磨くためには「海外語学・文化セミナー I～V」だけでなく関連する語学科目、外国語研究などの事前、継続履修を強く勧める。また、沖縄や日本との関係を更に理解するためにも共通科目だけでなく各学部学科が提供している科目の履修（自由選択科目として）が望ましい。</p> |

| | | | | |
|--------|--------------|------|--------------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 海外語学・文化セミナーⅢ | その他 | | 4 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 国際理解科目群担当教員等 | 全学年 | グローバル教育支援センター窓口等 (ircchr@okiu.ac.jp) | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>「海外語学・文化セミナー」は、本学の学生が海外での「語学学習&文化体験プログラム」へ参加することにより、生きた外国語に触れ、国際的視野を広げる機会を得られるように設けられた科目です。夏期・春期休業期間を利用して、本学の国外協定校が提供する各種研修に参加し、自らの語学能力やコミュニケーション能力を向上させ、異文化理解（多文化理解）を深めることを目標とします。</p> | <p>多文化に興味を持ち、理解しようとすることはグローバル化した現代社会で活躍するための基本です。国外協定校での実体験を通し得られる新たな発見や理解がグローバルな視野を築く基礎になり、国際感覚を育むこととなります。</p> |
| 到達目標 | <p>「国外協定校」のアンバサダーになれるように地理・歴史・文化を広く理解し、国外協定校が提供するカリキュラムの体験を通して各自が得た国際感覚・知的理解を言葉で表現できるレベルに至るため、次の目標の達成をめざします。</p> <p>(1) 事前研修への参加を通じて、派遣国・地域に関する基本的な語学・知識を修得することができる。</p> <p>(2) 派遣された協定校における研修を通じて、語学の技能や文化体験での学びを深めることができる。</p> <p>(3) 研修内容を自覚的に内省し、その内容について報告書にまとめることができる。</p> <p>(4) 研修の成果を他者に発信するために、写真展・帰国報告会に積極的に取り組むことができる。</p> | |

| | | | |
|-------|----------------|-------------------------------|-----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 事前研修（本学内） | オリエンテーション |
| | 2 | 事前研修（本学内） | 研修先について調べる |
| | 3 | 事前研修（本学内） | 研修先について調べる |
| | 4 | 事前研修（本学内） | 出発前の確認および手続き |
| | 5 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 6 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 7 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 8 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 9 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 10 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 11 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 12 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 13 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 14 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 15 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 16 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 17 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 18 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 19 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 20 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 21 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 22 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 23 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 24 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 25 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 26 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 27 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 28 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 29 | 帰国報告会、写真展（本学内） | 報告書、報告会、写真展の準備 |
| | 30 | 帰国報告会、写真展（本学内） | 報告書、報告会、写真展の準備 |
| 31 | 帰国報告会、写真展（本学内） | | |

| | |
|-------|--|
| 学 | <p>テキスト・参考文献・資料など 事前研修でも紹介しますが、各自の知的好奇心に応じて図書館やメディアを利用して調べること。</p> |
| 学びの実践 | <p>学びの手立て 履修を考えるに当たり、以下のことを念頭に置いてください。（事前研修・事後報告があります）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的地（国外協定校）の「鼻高さん」になれるように地理、歴史、文化を事前に調べる。 ・協定校が提供する語学・文化セミナーのクラスを実体験して「鼻高さん知識」の確認、修正、追加を行う。 ・帰国後、先輩、後輩や友人に異文化体験を紹介し、自分が感じた事、学んだ事を言語（発表と報告書）で表現する。 <p>※事前研修では受け身ではなく積極的に調べ、現地では日記や写真などの記録を取る。帰国後は、報告会と報告書の提出がある。 （報告書はフォーマットが用意されています。事前研修時に配布します）</p> |
| | <p>評価 到達目標（1）の評価：事前研修への出席（20%）、到達目標（2）の評価：研修先での成績（40%）、到達目標（3）の評価：帰国報告書の提出（25%）、到達目標（4）の評価：写真展・帰国報告会の取組（15%）の合計得点で評価され、「共通科目・国際理解科目群」における「海外語学・文化セミナー」として「4単位」が認定されます。「海外語学・文化セミナー」は「I」～「V」まで設定されていますが、単位認定は原則として数字の小さい科目から順次、認定されます。</p> |
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目 国際感覚を磨くためには「海外語学・文化セミナーI～V」だけでなく関連する語学科目、外国語研究などの事前、継続履修を強く勧める。また、沖縄や日本との関係を更に理解するためにも共通科目だけでなく各学部学科が提供している科目の履修（自由選択科目として）が望ましい。</p> |

| | | | | |
|--------|--------------|------|--------------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 海外語学・文化セミナーⅣ | その他 | | 4 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 国際理解科目群担当教員等 | 全学年 | グローバル教育支援センター窓口等 (ircchr@okiu.ac.jp) | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 「海外語学・文化セミナー」は、本学の学生が海外での「語学学習&文化体験プログラム」へ参加することにより、生きた外国語に触れ、国際的視野を広げる機会を得られるように設けられた科目です。夏期・春期休業期間を利用して、本学の国外協定校が提供する各種研修に参加し、自らの語学能力やコミュニケーション能力を向上させ、異文化理解（多文化理解）を深めることを目標とします。 | 多文化に興味を持ち、理解しようとすることはグローバル化した現代社会で活躍するための基本です。国外協定校での実体験を通し得られる新たな発見や理解がグローバルな視野を築く基礎になり、国際感覚を育むこととなります。 |
| 到達目標 | 「国外協定校」のアンバサダーになれるように地理・歴史・文化を広く理解し、国外協定校が提供するカリキュラムの体験を通して各自が得た国際感覚・知的理解を言葉で表現できるレベルに至るため、次の目標の達成をめざします。 | |
| | (1) 事前研修への参加を通じて、派遣国・地域に関する基本的な語学・知識を修得することができる。 (2) 派遣された協定校における研修を通じて、語学の技能や文化体験での学びを深めることができる。 (3) 研修内容を自覚的に内省し、その内容について報告書にまとめることができる。 (4) 研修の成果を他者に発信するために、写真展・帰国報告会に積極的に取り組むことができる。 | |

| | | | |
|-------|----------------|-------------------------------|-----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 事前研修（本学内） | オリエンテーション |
| | 2 | 事前研修（本学内） | 研修先について調べる |
| | 3 | 事前研修（本学内） | 研修先について調べる |
| | 4 | 事前研修（本学内） | 出発前の確認および手続き |
| | 5 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 6 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 7 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 8 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 9 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 10 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 11 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 12 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 13 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 14 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 15 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 16 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 17 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 18 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 19 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 20 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 21 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 22 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 23 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 24 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 25 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 26 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 27 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 28 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 29 | 帰国報告会、写真展（本学内） | 報告書、報告会、写真展の準備 |
| | 30 | 帰国報告会、写真展（本学内） | 報告書、報告会、写真展の準備 |
| 31 | 帰国報告会、写真展（本学内） | | |

| | |
|-------|--|
| 学 | <p>テキスト・参考文献・資料など 事前研修でも紹介しますが、各自の知的好奇心に応じて図書館やメディアを利用して調べること。</p> |
| 学びの実践 | <p>学びの手立て 履修を考えるに当たり、以下のことを念頭に置いてください。（事前研修・事後報告があります）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的地（国外協定校）の「鼻高さん」になれるように地理、歴史、文化を事前に調べる。 ・協定校が提供する語学・文化セミナーのクラスを実体験して「鼻高さん知識」の確認、修正、追加を行う。 ・帰国後、先輩、後輩や友人に異文化体験を紹介し、自分が感じた事、学んだ事を言語（発表と報告書）で表現する。 <p>※事前研修では受け身ではなく積極的に調べ、現地では日記や写真などの記録を取る。帰国後は、報告会と報告書の提出がある。 （報告書はフォーマットが用意されています。事前研修時に配布します）</p> |
| | <p>評価 到達目標（1）の評価：事前研修への出席（20%）、到達目標（2）の評価：研修先での成績（40%）、到達目標（3）の評価：帰国報告書の提出（25%）、到達目標（4）の評価：写真展・帰国報告会の取組（15%）の合計得点で評価され、「共通科目・国際理解科目群」における「海外語学・文化セミナー」として「4単位」が認定されます。「海外語学・文化セミナー」は「I」～「V」まで設定されていますが、単位認定は原則として数字の小さい科目から順次、認定されます。</p> |
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目 国際感覚を磨くためには「海外語学・文化セミナーI～V」だけでなく関連する語学科目、外国語研究などの事前、継続履修を強く勧める。また、沖縄や日本との関係を更に理解するためにも共通科目だけでなく各学部学科が提供している科目の履修（自由選択科目として）が望ましい。</p> |

| | | | | |
|--------|--------------|------|--------------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 海外語学・文化セミナーV | その他 | | 4 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 国際理解科目群担当教員等 | 全学年 | グローバル教育支援センター窓口等 (ircchr@okiu.ac.jp) | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>「海外語学・文化セミナー」は、本学の学生が海外での「語学学習&文化体験プログラム」へ参加することにより、生きた外国語に触れ、国際的視野を広げる機会を得られるように設けられた科目です。夏期・春期休業期間を利用して、本学の国外協定校が提供する各種研修に参加し、自らの語学能力やコミュニケーション能力を向上させ、異文化理解（多文化理解）を深めることを目標とします。</p> | <p>多文化に興味を持ち、理解しようとすることはグローバル化した現代社会で活躍するための基本です。国外協定校での実体験を通し得られる新たな発見や理解がグローバルな視野を築く基礎になり、国際感覚を育むこととなります。</p> |
| 到達目標 | <p>「国外協定校」のアンバサダーになれるように地理・歴史・文化を広く理解し、国外協定校が提供するカリキュラムの体験を通して各自が得た国際感覚・知的理解を言葉で表現できるレベルに至るため、次の目標の達成をめざします。</p> <p>(1) 事前研修への参加を通じて、派遣国・地域に関する基本的な語学・知識を修得することができる。</p> <p>(2) 派遣された協定校における研修を通じて、語学の技能や文化体験での学びを深めることができる。</p> <p>(3) 研修内容を自覚的に内省し、その内容について報告書にまとめることができる。</p> <p>(4) 研修の成果を他者に発信するために、写真展・帰国報告会に積極的に取り組むことができる。</p> | |

| | | | |
|-------|----------------|-------------------------------|-----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 事前研修（本学内） | オリエンテーション |
| | 2 | 事前研修（本学内） | 研修先について調べる |
| | 3 | 事前研修（本学内） | 研修先について調べる |
| | 4 | 事前研修（本学内） | 出発前の確認および手続き |
| | 5 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 6 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 7 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 8 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 9 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 10 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 11 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 12 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 13 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 14 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 15 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 16 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 17 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 18 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 19 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 20 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 21 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 22 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 23 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 24 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 25 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 26 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 27 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 28 | 国外協定校が提供するカリキュラムに沿って履修（国外協定校） | 週末は文化体験クラスや自由活動 |
| | 29 | 帰国報告会、写真展（本学内） | 報告書、報告会、写真展の準備 |
| | 30 | 帰国報告会、写真展（本学内） | 報告書、報告会、写真展の準備 |
| 31 | 帰国報告会、写真展（本学内） | | |

| | |
|-------|--|
| 学 | <p>テキスト・参考文献・資料など 事前研修でも紹介しますが、各自の知的好奇心に応じて図書館やメディアを利用して調べること。</p> |
| 学びの実践 | <p>学びの手立て 履修を考えるに当たり、以下のことを念頭に置いてください。（事前研修・事後報告があります）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的地（国外協定校）の「鼻高さん」になれるように地理、歴史、文化を事前に調べる。 ・協定校が提供する語学・文化セミナーのクラスを実体験して「鼻高さん知識」の確認、修正、追加を行う。 ・帰国後、先輩、後輩や友人に異文化体験を紹介し、自分が感じた事、学んだ事を言語（発表と報告書）で表現する。 <p>※事前研修では受け身ではなく積極的に調べ、現地では日記や写真などの記録を取る。帰国後は、報告会と報告書の提出がある。 （報告書はフォーマットが用意されています。事前研修時に配布します）</p> |
| | <p>評価 到達目標（１）の評価：事前研修への出席（20％）、到達目標（２）の評価：研修先での成績（40％）、到達目標（３）の評価：帰国報告書の提出（25％）、到達目標（４）の評価：写真展・帰国報告会の取組（15％）の合計得点で評価され、「共通科目・国際理解科目群」における「海外語学・文化セミナー」として「4単位」が認定されます。「海外語学・文化セミナー」は「Ⅰ」～「Ⅴ」まで設定されていますが、単位認定は原則として数字の小さい科目から順次、認定されます。</p> |
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目 国際感覚を磨くためには「海外語学・文化セミナーⅠ～Ⅴ」だけでなく関連する語学科目、外国語研究などの事前、継続履修を強く勧める。また、沖縄や日本との関係を更に理解するためにも共通科目だけでなく各学部学科が提供している科目の履修（自由選択科目として）が望ましい。</p> |

| | | | | |
|--------|-------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 国際経済 | 前期 | 金 3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -当銘 学 | 1年 | 授業終了後に教室で受け付けます。 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 国際経済の歴史的な変遷の概観を通して、国際的な経済事象を理論的枠組みの中で捉えることができる。さらには、講義を通して国際社会における現代の日本経済の位置づけと将来への展望も見えてくることになるでしょう。 | 国際経済の今に至るこれまでの国際経済の枠組み(貿易秩序・金融体制)の変遷の大きな流れを掴み、そして今に生きる私たちの生活に直接的・間接的に影響を及ぼす国際的な経済事象を理論的枠組みの中でその根拠と要因の分析を試み国際経済を理解していく講義内容となりますが、できるだけ初学者にも理解できる平易な言葉で解説・説明します。 |
| 到達目標 | 国際経済に関連する時事経済を大まかに理解できるようになる。具体的には、経済新聞に掲載されている為替変動・原油価格等の経済指標の動向に関連する経済解説を読んで大まかではあるが程度理解できるようになる。 | |

| | | | |
|----------------|--|---------------------|-----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス・国際経済はいま | 時事経済問題に関心をもつ |
| | 2 | 貿易の基礎理論(国家間の財の移動) | 参考文献①の第5章の2節 |
| | 3 | 自由貿易と貿易利益 | 参考文献⑤の第2章 |
| | 4 | 経常収支(国家間の資金移動・資金調達) | 参考文献①の第3章の2節 |
| | 5 | 対外直接投資の基礎理論 | 参考文献①の第7章の2節 |
| | 6 | 貿易政策の基礎理論 | 参考文献①の第6章の7節 |
| | 7 | 戦後の国際経済秩序 | 参考文献①の第1章の2節 |
| | 8 | 同上(IMF体制・金本位制) | 参考文献④の第8章の2節 |
| | 9 | 米国の戦後復興支援と欧州・日本経済 | 参考文献③の第8章の2節・3節 |
| | 10 | 国際収支上の直接投資の理論 | 参考文献③の第4章の2節・3節 |
| | 11 | 変動相場制・為替変動決定論 | 参考文献②の第2章 |
| | 12 | 国際経済の変貌と日本経済 | 参考文献②の第2章 |
| | 13 | 通商問題の変遷 | 参考文献①の第6章の1節 |
| 14 | 地域経済統合 | 参考文献②の第3章の1節 | |
| 15 | 国際経済の現状と課題 | 参考文献②の第4～7章 | |
| 16 | 総括、期末テスト | | |
| テキスト・参考文献・資料など | テキストは使用しません。時間外学習の際の自主学習のための参考文献として、以下を推薦する。①「ゼミナール国際経済」伊藤元重(著)日本経済新聞社出版社②私たちの「国際経済」(編)東京経済大学経済グループ(著)有斐閣ブックス③「初めての国際経済」浦田秀四郎・小川英治・澤田奉康幸(著)有斐閣アルマ④「ゼミナール日本経済」三橋規宏・内田茂男・池田吉紀(著)日本経済新聞出版社。⑤「コア・テキスト国際経済学」大川昌幸(著)新世社。 | | |
| 学びの手立て | 履修のための留意点を以下に挙げる。①毎回、出欠確認をとります。不可抗力の理由等があれば必ず欠席届を提出すること。②理解度を確認するために隔週ごとの小テストを行います。毎回の講義を集中して聞きノートを取ること。③テキストは使用せず、講義のコンテンツは板書とプリントで構成されますが、私たちの今の生活と未来の日本経済のゆくえにも関連すると思われる国際経済動向を学ぶことになるため関心を持って講義を聞くこと。④履修生の専攻科目が多岐にわたる共通科目のため、抽象的な経済用語や経済理論をできるだけ平易な言葉で説明・解説に努めますが、履修学生は講義外でも私たちの生活に影響を与える経済時事問題に関連する新聞記事を読むこと。 | | |
| 評価 | 小テスト(計6回)・期末テスト.....計70% 平常点...計30% 講義中の態度や積極性。例えば、質問に答えると適宜加点する。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 関連科目としては、経済基礎理論の習得のための「経済学入門」、「経済学I・II」、上位科目としては、「ミクロ経済学I・II」、「マクロ経済学・II」、「国際経済論I・II」、「貿易論I・II」、「国際金融論I・II」 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|-------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 国際経済 | 後期 | 金 3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -当銘 学 | 1年 | 授業終了後に教室で受け付けます。 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 国際経済の歴史的な変遷の概観を通して、国際的な経済事象を理論的枠組みの中で捉えることができる。さらには、講義を通して国際社会における現代の日本経済の位置づけと将来への展望も見えてくることになるでしょう。 | 国際経済の今に至るこれまでの国際経済の枠組み(貿易秩序・金融体制)の変遷の大きな流れを掴み、そして今に生きる私たちの生活に直接的・間接的に影響を及ぼす国際的な経済事象を理論的枠組みの中でその根拠と要因の分析を試み国際経済を理解していく講義内容となりますが、できるだけ初学者にも理解できる平易な言葉で解説・説明します。 |
| 到達目標 | 国際経済に関連する時事経済を大まかに理解できるようになる。具体的には、経済新聞に掲載されている為替変動・原油価格等の経済指標の動向に関連する経済解説を読んで大まかではあるが程度理解できるようになる。 | |

| | | | |
|-------|------------|---------------------|-----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス・国際経済はいま | 時事経済問題に関心をもつ |
| | 2 | 貿易の基礎理論(国家間の財の移動) | 参考文献①の第5章の2節 |
| | 3 | 自由貿易と貿易利益 | 参考文献⑤の第2章 |
| | 4 | 経常収支(国家間の資金移動・資金調達) | 参考文献①の第3章の2節 |
| | 5 | 対外直接投資の基礎理論 | 参考文献①の第7章の2節 |
| | 6 | 貿易政策の基礎理論 | 参考文献①の第6章の7節 |
| | 7 | 戦後の国際経済秩序 | 参考文献①の第1章の2節 |
| | 8 | 同上(IMF体制・金本位制) | 参考文献④の第8章の2節 |
| | 9 | 米国の戦後復興支援と欧州・日本経済 | 参考文献③の第8章の2節・3節 |
| | 10 | 国際収支上の直接投資の理論 | 参考文献③の第4章の2節・3節 |
| | 11 | 変動相場制・為替変動決定論 | 参考文献②の第2章 |
| | 12 | 国際経済の変貌と日本経済 | 参考文献①の第2章の1節 |
| | 13 | 通商問題の変遷 | 参考文献①の第6章の1節 |
| | 14 | 地域経済統合 | 参考文献②の第3章の1節 |
| 15 | 国際経済の現状と課題 | 参考文献②の第4～第7章 | |
| 16 | 総括、期末テスト | | |

| | |
|----|--|
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など |
| | テキストは使用しません。時間外学習の際の自主学習のための参考文献として、以下を推薦する。①「ゼミナール国際経済」伊藤元重(著)日本経済新聞社出版社②私たちの「国際経済」(編)東京経済大学経済グループ(著)有斐閣ブックス③「初めての国際経済」浦田秀四郎・小川英治・澤田奉康幸(著)有斐閣アルマ④「ゼミナール日本経済」三橋規宏・内田茂男・池田吉紀(著)日本経済新聞出版社。⑤「コア・テキスト国際経済学」大川昌幸(著)新世社。 |

| | |
|--------|--|
| 学びの手立て | 履修のための留意点を以下に挙げる。①毎回、出欠確認をとります。不可抗力の理由等があれば必ず欠席届を提出すること。②理解度を確認するために隔週ごとの小テストを行います。毎回の講義を集中して聞きノートを取ること。③テキストは使用せず、講義のコンテンツは板書とプリントで構成されますが、私たちの今の生活と未来の日本経済のゆくえにも関連すると思われる国際経済動向を学ぶことになるため関心を持って講義を聞くこと。④履修生の専攻科目が多岐にわたる共通科目のため、抽象的な経済用語や経済理論をできるだけ平易な言葉で説明・解説に努めますが、履修学生は講義外でも私たちの生活に影響を与える経済時事問題に関連する新聞記事を読むこと。 |
|--------|--|

| | |
|----|--|
| 評価 | 小テスト(計6回)・期末テスト.....計70% 平常点...計30% 講義中の態度や積極性。例えば、質問に答えると適宜加点する。 |
|----|--|

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 関連科目としては、経済基礎理論の習得のための「経済学入門」、「経済学I・II」、上位科目としては、「ミクロ経済学I・II」、「マクロ経済学・II」、「国際経済論I・II」、「貿易論I・II」、「国際金融論I・II」 |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性

法学部専門科目の「国際政治学」と関係が深いので、より深く勉強したい学生は合わせて受講することをおすすめします。

[/一般講義]

| | | | | |
|--------|--------|------|-----------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 国際政治 | 後期 | 水3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -山本 章子 | 1年 | ptt989@okiu.ac.jpまでメールください。 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい 本講義は、国際政治が外交、安全保障、社会、経済、その他の様々なグローバル・イシューに広く関わることを理解してもらうことを目的としています。地方公務員試験・沖縄県職員試験・教員試験などの国際関係の過去問を復習テストとして使用するので、試験対策としても有効です。 | メッセージ 受講する学生の皆さんには、知識の習得以上に、国際政治への広い関心を持ってくれること、物事を様々な角度から柔軟に考えられるようになることを期待しています。時事問題を取り入れ、映画や音楽のPV、ドキュメンタリーの映像を短い時間で流したり、沖縄の魅力を外の目から紹介したりと、講義に色々な工夫をこらしていきます。 |
| | 到達目標 毎回の講義で話した内容に沿って行う復習テストで、正確に解答できるようになることを望みます。使用する問題は地方公務員試験・沖縄県職員試験・教員試験などの国際関係の過去問ですので、最初は正誤問題に慣れなくて苦労する学生もいると思います。問題を解くための考え方を毎回解説しますので、それを自分のものとしてほしいです。身についたかどうかは、期末試験で判断します。 | |

| | | | |
|-------|---|-------------------------|-----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 近代国家の条件(1) 主権 | |
| | 2 | 近代国会の条件(2) nation | 復習テストの見直し |
| | 3 | 近代国家の条件(3) 領土 | 同上 |
| | 4 | 非政府組織(1) 国連と国際機関 | 同上 |
| | 5 | 非政府組織(2) NGO | 同上 |
| | 6 | リアリズムの時代：勢力均衡と安全保障のジレンマ | 同上 |
| | 7 | リベラリズムの模索と限界 | 同上 |
| | 8 | 冷戦と脱植民地化 | 同上 |
| | 9 | 冷戦後の国際紛争 | 同上 |
| | 10 | グローバル市場経済の発展 | 同上 |
| | 11 | 多国籍企業 | 同上 |
| | 12 | グローバリゼーションと貧困 | 同上 |
| | 13 | 移民・難民問題 | 同上 |
| | 14 | 人権問題 | 同上 |
| | 15 | 環境問題 | 同上 |
| | 16 | 期末試験 | |
| | テキスト・参考文献・資料など 参考文献：ロビン・コーエン／ポール・ケネディ 『グローバル・ソシオロジー I—格差と亀裂』 平凡社、2003年 | | |
| | 学びの手立て 教員が一方的に講義を行うのではなく、復習テストや講義中の応答を通じて、受講者一人ひとりに考えてもらうので、寝るだけ、友達と話すか携帯をいじるだけ、ノートをとるだけの講義態度では不可とします。 | | |
| | 評価 毎回講義の冒頭と最後に復習テストを行い、最後の方の復習テストは回収することで、出席状況と授業参加姿勢を見ます。期末に行うテストは、復習テストの中から出題します。平常点70%、期末試験30%の総合評価となります。 | | |

| | |
|-------|---------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 上位科目：国際政治学 |
|-------|---------------------------|

| | | | | |
|--------|---------|------|-------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 国際平和学 I | 前期 | 火 3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -秋山 道宏 | 1年 | 初回のガイダンス時にお伝えします。 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 2015年9月、安保関連法（戦争法）の制定が強行されました。この戦争法は、立憲主義など民主主義のあり方だけでなく、将来の沖縄や日本をめぐる「平和と安全保障」のあり方をも大きく変えようとしています。この授業では、「武力によらない平和」をめざす視点から、戦争法の強行に至る歴史的な背景とこれからの展望について、周辺諸国やアメリカとの関わりも含めて考えていきます。 | 「いま沖縄や日本の平和をめぐるなにが起こっているのか」「目の前の現状をどのように考え、どのように行動していったらいいのか」といった疑問を抱き、歴史的・社会的な背景も含めて考えてみたい学生の受講を期待しています。 |
| 到達目標 | 国際平和学 I の受講を通して、以下の二つを学習成果として得ることができる。 ①わたしたちの置かれている「平和と安全保障」の現状について、歴史的、社会的な背景にもとづいて理解することができる。 ②①によって、これからの「平和と安全保障」について考えることができ、また、周辺諸国の人びととの関係づくりなど実践的な課題において必要な視点を得ることができる。 | |

| | | | |
|-------|-------------------|--------------------------------------|-------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス。国際平和学 I でなにを扱うか。 | シラバスを事前に読んでおくこと。 |
| | 2 | 「平和と安全保障」のいま①安保法制と「積極的平和主義」を考える。 | テキスト予復習（Iの1、2）。 |
| | 3 | 「平和と安全保障」のいま②辺野古新基地建設の現状と歴史的背景。 | テキスト予復習（Iの4）。 |
| | 4 | 「平和と安全保障」のいま③「テロとの戦い」のなかでの「平和と安全保障」。 | テキスト予復習（Iの5）。 |
| | 5 | 「平和と安全保障」のいま④軍事と経済。武器輸出政策のねらい。 | テキスト予復習（Iのコラム2）。 |
| | 6 | 「平和と安全保障」の歴史①戦後の国際関係の出発点と「冷戦」のはじまり。 | テキスト予復習（IIの1～3）。 |
| | 7 | 「平和と安全保障」の歴史②なぜ沖縄に基地が集中したのか？ | テキスト予復習（IIの4～7）。 |
| | 8 | 「平和と安全保障」の歴史③「平和国家」の内実（憲法9条と自衛隊）。 | テキスト予復習（IIの8～9）。 |
| | 9 | 「平和と安全保障」の歴史④グローバル化による安全保障の変化。 | テキスト予復習（IIの10）。 |
| | 10 | 「平和と安全保障」の展望①領土問題はいかに解決できるか。 | テキスト予復習（IIIの1）。 |
| | 11 | 「平和と安全保障」の展望②より良い近隣諸国との関係づくりとは？ | テキスト予復習（IIIの3、5）。 |
| | 12 | 「平和と安全保障」の展望③ナショナリズム、宗教、ジェンダーから考える。 | テキスト予復習（IIIの6）。 |
| | 13 | 「平和と安全保障」の展望④「武力によらない平和」はいかに可能か。 | テキスト予復習（IIIの2、7）。 |
| | 14 | 日本・沖縄から「平和と安全保障」を考える。 | 授業内容の復習。 |
| 15 | 授業全体のまとめ。レポートの提出。 | | |
| 16 | 補講等、調整日。 | | |

| | |
|----|--|
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など |
| | <p>テキストとして以下を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梶原渉・城秀孝・布施祐仁・真嶋麻子編著『18歳からわかる 平和と安全保障のえらび方』（大月書店、2016年、定価1,600円（税抜）） <p>参考文献や資料は授業で随時提示しますが、学習を深める観点から二冊だけ提示しておきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石原昌家・仲地博・C.ダグラス・ラミス編著『オキナワを平和学する！』（法律文化社、2005年） ・日本平和学会編『平和を考えるための100冊+α』（法律文化社、2014年） |

| | |
|--------|---|
| 学びの手立て | <p>履修の心構え</p> <p>授業もコミュニケーションの一つです。周囲の受講生や教員との信頼関係で成り立ち、その中でより良い学習ができることを意識しましょう。受講中の私語や携帯電話・スマートフォンの使用など、授業の進行や周囲への迷惑となる行為は禁止します。</p> <p>学びを深めるために</p> <p>新聞を日常的に目を通すことや世界各地のメディアで日本がどのように報道されているのかをみることで、授業で取り上げた内容をより深く理解することができます</p> |
|--------|---|

| | |
|----|--|
| 評価 | <p>(1) 出席 (20%) ・ 授業への参加姿勢 (30%) …毎回、授業の最後にリアクションペーパーを記入してもらい、出席および参加姿勢（授業内容の理解）をみます。</p> <p>(2) 学期末レポート (50%) …授業で扱ったテーマに関連する課題を示し、授業内容についての理解度をみます。</p> <p>詳細については初回のガイダンスにてお知らせします。</p> |
|----|--|

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>授業を通して関心をもったテーマについて、学びを継続していきましょう。後期に開講する「国際平和学 II」や他の「国際理解科目群」の関連科目の受講をおすすめします。</p> |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|--------|------|-------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 国際平和学Ⅱ | 後期 | 月 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -大城 尚子 | 1年 | ptt987@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 現代世界では、人・物資・情報が以前よりも頻繁に国境を越えて行き交い、一国の出来事が他国の日常生活に影響を与える。受講生は、これらの諸現象を把握し、相互に関係しあう国際的、国内的要因を比較・分析し、明らかにできるようになる。また、受講者が時事問題を理解する上で、基本となる見方を理解し、説明できることが本講義の目的である。 | 国際社会の動向を知り、「平和」とは何かを考えます。また、沖縄で国際平和学を学ぶ意義を実践的に考えていきます。 |
| 到達目標 | 目標① 身近な問題を通して国際社会の課題を考えられるようになる | |
| | 目標② 国際社会の問題を通して身近な問題を考えられるようになる。 | |
| | 目標③ 身近な問題を説明できる | |
| | 目標④ 国際社会の課題を説明できる | |

| | | | |
|-------|--|-----------------------|------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | イントロダクション——国際平和学と「私」 | ヨハン・ガルトゥングの構造的暴力 |
| | 2 | 平和って誰がつくるの？ | ヨハン・ガルトゥングの構造的暴力 |
| | 3 | 5つの紛争解決の方法—トランセンド法から— | ヨハン・ガルトゥングの紛争解決 |
| | 4 | コミュニティと平和① | 構造的暴力 |
| | 5 | コミュニティと平和② | 構造的暴力 |
| | 6 | 平時における「平和」とは | 構造的暴力 |
| | 7 | レポートの課題設定 | |
| | 8 | 身のまわりにある差別問題① | 身近な差別問題 |
| | 9 | 身のまわりにある差別問題② | 身近な差別問題 |
| | 10 | 身のまわりにある差別問題③ | 身近な差別問題 |
| | 11 | 「言語」と平和① | しまくとうば復興 |
| | 12 | 「言語」と平和② | しまくとうば復興 |
| | 13 | オルターグローバリゼーション① | オルターグローバリゼーション |
| 14 | オルターグローバリゼーション② | 先住民族の権利 | |
| 15 | オルターグローバリゼーション③ | 先住民族の権利 | |
| 16 | 試験 | | |
| | テキスト・参考文献・資料など | | |
| | テキストは使用しません。プリントを配布します。 | | |
| | 学びの手立て | | |
| | 新聞をよく読むこと（特に国際関係、平和、基地、人権など） 私語、携帯電話の使用など周囲に迷惑のかかるような行為はしない。「国際平和学Ⅰ」では、平和学の理論と平和と戦争に関わる問題に絞り講義し、「国際平和学Ⅱ」では、その理論を踏まえて身近な「暴力」の事例を中心に授業を行う。 | | |
| | 評価 | | |
| | 出席用紙に講義に関するコメントを書いてもらう。それにより出欠状況と授業参加姿勢をみる。小テスト、期末試験を総合して判断、評価する。 | | |
| | 出席・授業参加姿勢（30%）、小テスト（20%）、中間レポート（20%）、期末試験（30%）。 | | |
| | 中間レポート：2000字（沖縄ポータルから提出）。 | | |

| | |
|-------|-------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
| | 国際社会の問題を身近な問題とひきつけて考えることができる。 |

| | | | | |
|--------|--------|------|-------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 国際平和学Ⅱ | 後期 | 水3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -大城 尚子 | 1年 | ptt987@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 現代世界では、人・物資・情報が以前よりも頻繁に国境を越えて行き交い、一国の出来事が他国の日常生活に影響を与える。受講生は、これらの諸現象を把握し、相互に関係しあう国際的、国内的要因を比較・分析し、明らかにできるようになる。また、受講者が時事問題を理解する上で、基本となる見方を理解し、説明できることが本講義の目的である。 | 国際社会の動向を知り、「平和」とは何かを考えます。また、沖縄で国際平和学を学ぶ意義を実践的に考えていきます。 |
| 到達目標 | 目標① 身近な問題を通して国際社会の課題を考えられるようになる | |
| | 目標② 国際社会の問題を通して身近な問題を考えられるようになる。 目標③ 身近な問題を説明できる 目標④ 国際社会の課題を説明できる | |

| | | | |
|-------|---|----------------------|------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | イントロダクション——国際平和学と「私」 | ヨハン・ガルトゥングの構造的暴力 |
| 2 | 平和って誰がつくるの？ | ヨハン・ガルトゥングの構造的暴力 | |
| 3 | 5つの紛争解決の方法—トランセンド法から— | ヨハン・ガルトゥングの紛争解決 | |
| 4 | コミュニティと平和① | 構造的暴力 | |
| 5 | コミュニティと平和② | 構造的暴力 | |
| 6 | 平時における「平和」とは | 構造的暴力 | |
| 7 | レポートの課題設定 | | |
| 8 | 身のまわりにある差別問題① | 身近な差別問題 | |
| 9 | 身のまわりにある差別問題② | 身近な差別問題 | |
| 10 | 身のまわりにある差別問題③ | 身近な差別問題 | |
| 11 | 「言語」と平和① | しまくとうば復興 | |
| 12 | 「言語」と平和② | しまくとうば復興 | |
| 13 | オルターグローバリゼーション① | オルターグローバリゼーション | |
| 14 | オルターグローバリゼーション② | 先住民族の権利 | |
| 15 | オルターグローバリゼーション③ | 先住民族の権利 | |
| 16 | 試験 | | |
| | テキスト・参考文献・資料など | | |
| | テキストは使用しません。プリントを配布します。 | | |
| | 学びの手立て | | |
| | 新聞をよく読むこと（特に国際関係、平和、基地、人権など） 私語、携帯電話の使用など周囲に迷惑のかかるような行為はしない。「国際平和学Ⅰ」では、平和学の理論と平和と戦争に関わる問題に絞り講義し、「国際平和学Ⅱ」では、その理論を踏まえて身近な「暴力」の事例を中心に授業を行う。 | | |
| | 評価 | | |
| | 出席用紙に講義に関するコメントを書いてもらう。それにより出欠状況と授業参加姿勢をみる。小テスト、期末試験を総合して判断、評価する。 出席・授業参加姿勢（30%）、小テスト（20%）、中間レポート（20%）、期末試験（30%）。 中間レポート：2000字（沖国ポータルから提出）。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 国際社会の問題を身近な問題とひきつけて考えることができる。 |
|-------|--|

| | | | | |
|--------|------------|------|---------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 国際理解課題研究 I | 通年 | 水 4 | 4 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 上原 千登勢 | 3年 | c.uehara@okiu.ac.jp 9号館502号室 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい グローバル社会に必要なコミュニケーション力、異文化理解などを通して、自立した学習者・即戦力のある人材になることを目指す。また日本・沖縄の状況を客観的に分析・比較し、自らの意見や情報を発表・発信できるようになる。 | メッセージ 英語が好き、海外に行ってみたい、異文化に興味がある、そんな学生に是非受講して欲しい。英語力は特に問わないが、授業は英語と日本語で行うので、英語力をあげたい学生にはとても良い環境である。様々な活動を通して、世界を、日本・沖縄を、そして自分を知るきっかけになればと思う。I look forward to having you in my class! |
| | 到達目標 最終的には1年で学んだことを自分なりにまとめ、発表(Presentation)を行うことを目標とする。 | |

| | | | |
|-------|--------------------|--|----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | Orientation & Guidance | 目標設定・学習プランを立てる |
| | 2 | Course Design and Setting Goals | 目標設定・学習プランを立てる |
| | 3 | English Speaking Countries ① | 復習・課題 |
| | 4 | English Speaking Countries ② | グループ発表準備 |
| | 5 | English Speaking Countries ③ | 復習・課題・予習 |
| | 6 | What is GLOBISH? ① | 復習・課題 |
| | 7 | What is GLOBISH? ② | グループ発表準備 |
| | 8 | What is GLOBISH? ③ | 復習・課題・予習 |
| | 9 | Where's the Happiest Place on Earth? ① | 復習、課題 |
| | 10 | Where's the Happiest Place on Earth? ② | グループ発表準備 |
| | 11 | Where's the Happiest Place on Earth? ③ | 復習・課題・予習 |
| | 12 | Interviews ① | 復習・課題 |
| | 13 | Interviews ② | グループ発表準備 |
| | 14 | Interviews ③ | 復習・課題・予習 |
| | 15 | Review/ Summer Vacation Field Work | 夏休み課題 |
| | 16 | Summer Vacation Field Work Reports | 復習・課題 |
| | 17 | Critical Thinking ① | 復習・課題 |
| | 18 | Critical Thinking ② | グループ発表準備 |
| | 19 | Critical Thinking ③ | 復習・課題・予習 |
| | 20 | Debate ① | 復習・課題 |
| | 21 | Debate ② | グループ発表準備 |
| | 22 | Debate ③ | 復習・課題復習・予習 |
| | 23 | Conflict Resolution ① | 復習・課題 |
| | 24 | Conflict Resolution ② | グループ発表準備 |
| | 25 | Conflict Resolution ③ | 復習・課題・予習 |
| | 26 | Presentation Preparation ① | プレゼン準備 |
| | 27 | Presentation Preparation ② | プレゼン準備 |
| | 28 | Presentation Preparation ③ | プレゼン準備 |
| | 29 | Presentation Practice | プレゼン準備 |
| 30 | Final Presentasion | 課題 | |
| 31 | Class Reflection | | |

| | |
|-----------------------|---|
| 学 | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特にありませんが、授業で配布する資料やプリントはきちんとファイルすること。また、ポートフォリオの提出を定期的に行う。ネットなどで情報収集を多く行う予定である。</p> |
| び の 実 践 | <p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に出席することは基本である。全体の1/3以上欠席した時点で単位は認められない。30分以上の遅刻を欠席、また2回の遅刻は1回の欠席とみなす。 ・私語、居眠り、他の教科の宿題など、授業に関係のないことを行った場合欠席扱い、または退室してもらうことがあるので注意してほしい。積極的に授業に取り組み、発言や質問をすること。 ・学習経過・理解度をチェックするので予習、復習・課題は自主的、かつ積極的に行うこと。 ・スタディグループを作り、授業以外でも定期的に学習する環境作りをすること。欠席した際、クラスメートより授業内容を教えてもらい、配布物を預かってもらうようにすること。 |
| | <p>評価</p> <p>①授業態度、授業への参加・積極性（20%）②課題：グループワーク（20%）③課題：個人（20%）④Self-Reflection（20%）⑤Final Presentation（20%）を総合的に判断して評価する。</p> <p>また、授業以外に積極的に英語活動を行ったもの、ゲーム等の勝者にはボーナスポイントを与える場合があるのでそれらも考慮する。</p> |
| 学 び の 継 続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講座で学んだ知識・身につけたスキルを留学や就職にフルに活かして欲しい。英語VII (TOEIC)、英語VIII (TOEFL)などの講座の受講や夏休みの英語キャンプなどにも積極的に参加して欲しい。また社会人になっても自身で興味のあるテーマやことがらを追求する気持ちを持ち続け、問題に遭遇した時に自身で考え、解決できるような人材になって欲しい。</p> |

| | | | | |
|--------|------------|------|-----------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 国際理解課題研究 I | 通年 | 火 2 | 4 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 李 ヒョンジョン | 3年 | hlee@okiu.ac.jp 授業終了後にも受け付けます。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>本講義は、東アジアのなかでも最も日本の隣国であり、相互理解の面でも欠かせない韓国に焦点を当てる。日韓は政治・歴史的要因から文化理解の面で長い時期断絶されていたものの、近年は「韓流」「K-pop」といったサブ・カルチャー的要素が一躍買っている現状がある。講義では、韓国の歴史・社会、文化などに触れながら、日本・沖縄と比較・考察することで、日韓の真の相互理解について考える。</p> | <p>皆さんはニュースなどを通して、大衆文化面または人的交流面では友好に見える日韓関係が、政治・歴史的な面で一気に雰囲気冷めてしまう現状を感じていませんか。大衆文化的な面だけにとらわれない、または歴史的な面だけにもとらわれない、日韓の真の相互理解のためには、如何なる姿勢と能力が必要であるかをみんなで考えていきませんか。</p> |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・文化を客観的にみつめる力を持ち、自文化を再認識する。 ・興味のあるテーマについて深く考察し、論文としてまとめていく。 | |

| | | | |
|-------|-------------|----------------------|---------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 回 | | |
| | 1 | ガイダンス「講義の流れ、評価方法など」 | |
| | 2 | 東アジアにおける日本と韓国「概要と歴史」 | |
| | 3 | 韓国の社会1「生活・経済」 | グループ発表（1回目）準備 |
| | 4 | 韓国の社会2「教育制度と今日の教育事情」 | グループ発表（1回目）準備 |
| | 5 | 韓国の社会3「IT社会と韓国語の変容」 | グループ発表（1回目）準備 |
| | 6 | グループ発表と討議 | |
| | 7 | 韓国の文化1「行事をめぐる伝統文化」 | グループ発表（2回目）準備 |
| | 8 | 韓国の文化2「衣・食・住」 | グループ発表（2回目）準備 |
| | 9 | 韓国の文化3「伝統から現代へ」 | グループ発表（2回目）準備 |
| | 10 | グループ発表と討議 | |
| | 11 | 日韓相互理解1「韓国における日本観」 | グループ発表（3回目）準備 |
| | 12 | 日韓相互理解2「日本における韓国観」 | グループ発表（3回目）準備 |
| | 13 | 日韓相互理解3「文化リテラシーの必要性」 | グループ発表（3回目）準備 |
| | 14 | グループ発表と討議 | |
| | 15 | 前期のまとめ | |
| | 16 | 後期の流れとテーマ設定に関する討議 | テーマ設定のための文献調査 |
| | 17 | 研究調査の方法と論文作成について | テーマ設定のための文献調査 |
| | 18 | テーマ設定と自己計画シート作成 | |
| | 19 | 文献探索と発表・討議 | 先行研究のまとめ |
| | 20 | 文献探索と発表・討議 | 先行研究のまとめ |
| | 21 | 計画遂行における見直し1 | 先行研究のまとめ |
| | 22 | テーマに沿った調査報告 | 調査準備と実行 |
| | 23 | テーマに沿った調査報告 | 調査準備と実行 |
| | 24 | テーマに沿った調査報告 | 調査準備と実行 |
| | 25 | 計画遂行における見直し2 | 論文作成 |
| | 26 | 調査結果の分析とまとめ | 論文作成 |
| | 27 | 調査結果の分析とまとめ | 論文作成 |
| | 28 | 研究結果の発表 | 最終発表の準備 |
| 29 | 研究結果の発表 | 最終発表の準備 | |
| 30 | 研究結果の発表 | | |
| 31 | 後期のまとめ・自己評価 | | |

| | |
|-----------------------|--|
| 学 | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テーマに合わせて随時プリントを配布する。</p> <p>北尾謙治 他 (2005) 『広げる知の世界－大学での学びのレッスン－』 ひつじ書房</p> <p>小此木政夫 他 (2012) 『日韓新時代と東アジア国際政治』 慶應義塾大学出版会</p> <p>その他、必要に応じて講義のなかで紹介する。</p> |
| び の 実 践 | <p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自がテーマを設定し論文を作成するという前提で受講すること。 ・前期はグループ発表を通して協同のなかで自分の役割を果たすこと、後期は自己計画シートを作成しながら自分のテーマに沿った研究を積極的に遂行していくことを重視する。 |
| | <p>評価</p> <p>授業での発言・態度 (30%) と、グループまたは個人発表・課題・論文作成 (70%) などを合わせて評価する。</p> |
| 学 び の 継 続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国語を受講したことが無い学生は、ことばを通してその言語を使用する社会への理解を深めるために、卒業前に韓国語を受講する機会を持つことを勧める。 ・自分のテーマが卒業論文と関連を持つ場合は、より考察を深めていってほしい。 |

| | | | | |
|--------|------------|------|----------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 国際理解課題研究 I | 通年 | 火 4 | 4 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 上江洲 律子 | 3年 | 授業の前後に教室で行います。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>ヨーロッパ（主にフランス）を主題とする物語『星の王子さま』やアニメ映画『王と鳥』といった表象を通して、ヨーロッパの文化についての知識を得ることを目的とします。また、物語や映画が内包するヨーロッパ的なものを汲み取る力を身につけて、それらを受容する感受性や日本を中心とするだけに留まらない幅広い視点を獲得することを目指します。</p> <p>到達目標</p> <p>ヨーロッパを主題とする表象（小説、映画、芸術、建築、音楽、料理、ファッションなど）を取り上げて、そこに内包されるヨーロッパ的なものを汲み取り、日本との比較を通してそれについて自分の考えをまとめて、その考えを自分の言葉で発表することができるようになることを目標とします。</p> | <p>まず、ヨーロッパに関するさまざまな表現に触れてみましょう。それが、新しい世界への窓となります。</p> |

| | | | |
|-------|------------------------|----------------------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンスと物語『星の王子さま』についての発表の順番の決定 | 課題 |
| | 2 | 物語の分析と考察の方法の紹介と発表についてのガイダンス | 課題 |
| | 3 | 物語の分析と考察（1）発表 | 課題 |
| | 4 | 物語の分析と考察（2）発表 | 課題 |
| | 5 | 物語の分析と考察（3）発表 | 課題 |
| | 6 | 物語の分析と考察（4）発表 | 課題 |
| | 7 | 物語の分析と考察（5）発表 | 課題 |
| | 8 | 物語の分析と考察（6）発表 | 課題 |
| | 9 | 物語の分析と考察（7）発表 | 課題 |
| | 10 | 物語の分析と考察（8）発表 | 課題 |
| | 11 | 映画『王と鳥』の分析と考察の方法についての紹介（1）討論 | 課題 |
| | 12 | 映画『王と鳥』の分析と考察の方法についての紹介（2）討論 | 課題 |
| | 13 | 映画『王と鳥』の分析と考察の方法についての紹介（3）討論 | 課題 |
| | 14 | 映画『王と鳥』の分析と考察の方法についての紹介（4）討論 | 課題 |
| | 15 | 書評と映画評の作成についてのガイダンス | 課題 |
| | 16 | 書評あるいは映画評の作成（1）作成 | 課題 |
| | 17 | 書評あるいは映画評の作成（2）提出 | 課題 |
| | 18 | 書評あるいは映画評の作成（3）講評会 | 課題 |
| | 19 | ヨーロッパを主題とする発表と討論についてのガイダンス | 課題 |
| | 20 | ヨーロッパに関する主題の分析と考察（1）発表と討論 | 課題 |
| | 21 | ヨーロッパに関する主題の分析と考察（2）発表と討論 | 課題 |
| | 22 | ヨーロッパに関する主題の分析と考察（3）発表と討論 | 課題 |
| | 23 | ヨーロッパに関する主題の分析と考察（4）発表と討論 | 課題 |
| | 24 | ヨーロッパに関する主題の分析と考察（5）発表と討論 | 課題 |
| | 25 | ヨーロッパに関する主題の分析と考察（6）発表と討論 | 課題 |
| | 26 | ヨーロッパに関する主題の分析と考察（7）発表と討論 | 課題 |
| | 27 | ヨーロッパに関する主題の分析と考察（8）発表と討論 | 課題 |
| | 28 | ヨーロッパ映画の紹介（1）映画鑑賞 | 課題 |
| | 29 | ヨーロッパ映画の紹介（2）討論と映画評の作成についてのガイダンス | 課題 |
| 30 | ヨーロッパ映画の紹介（3）映画評の作成と提出 | 課題 | |
| 31 | ヨーロッパ映画の紹介（4）講評会 | | |

| | |
|-----------------------|---|
| 学 | <p>テキスト・参考文献・資料など サン＝テグジュペリ『星の王子さま』の訳本 ※『星の王子さま』については、数多くの訳本が出版されています。どの訳本でも構いませんので、各自、入手して目を通しておいて下さい。 ※それ以外の資料については、授業内で必要に応じてプリントを配付します。</p> |
| び の 実 践 | <p>学びの手立て フランスの小説家アンドレ・マルローは「われわれは比較を通してしか感じ取ることができない」と語っていますが、何かを理解する上で比較することは重要なことです。常に「比較する」ことを意識しながら作品に向かって下さい。</p> |
| | <p>評価 主にゼミにおける発表（80％）によって評価します。また、出席状況（20％）も評価に加味します。 ※ただし、単位修得のためには、授業の3分の2以上の出席を義務づけます。</p> |
| 学 び の 継 続 | <p>次のステージ・関連科目 ヨーロッパ文化を主題とする講義として、他に、ヨーロッパ研究Ⅰ（前期）とヨーロッパ研究Ⅱ（後期）があります。ヨーロッパについての知識を深めたい方は、その講義を受講して下さい。また、国際理解課題研究としては、アジアを主題としたゼミもあります。異文化へ幅広く理解を深めたい方は、そのゼミを受講して下さい。</p> |

| | | | | |
|--------|--------------|------|---|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 多民族論 | 前期 | 金 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | ダグラス トライスタット | 1年 | https://bee.okiu.ac.jp/mod/page/view.php?id=7062 | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい This course provides an overview and examination of anthropological and sociological theories related minority groups within larger societies, with special focus on immigrant groups. | メッセージ 出席確認はeラーニングシステムを使用します。第一回目の講義の際、eラーニングシステムの登録方法を説明し、一斉に登録を行います。よって、第1回目の講義に出席しない学生は、eラーニングシステム登録は各自の責任によって行うことになります。 |
| | 到達目標 多文化主義の問題について基礎的な理論を探る。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 1 ・eラーニングシステムの登録、オリエンテーション、講義概要、マイノリティーのタイプ 2 基本概念の定義を探る：人種、民族、エスニシティ、マイノリティー 3 アメリカ合衆国、イギリス、カナダと日本のマイノリティーの比較 4 ベルカーブの議論 5 マイノリティーの心理を探る 6 アイデンティティー：エミクとエティック 7 エスニックグループとエスニック境界理論 8 メルティングポットとサラダボール 9 A+B+C=A、または A+B+C=D 10 同化と社会文化的な多元主義 11 モデルマイノリティー 12 移民と国家：外国人労働者、永住権、国籍、市民権 13 移民の言語と教育 14 民族紛争と民族浄化 15 グローバル化とエスニックマイノリティー 16 移民が日本を救う、移民が日本をダメにする |
| | テキスト・参考文献・資料など Werner Sollors, Theories of Ethnicity: A Classical Reader Marcus Banks, Ethnicity: Anthropological Constructions Brettell & Hollifield, Migration Theory: Talking across Disciplines |
| | 学びの手立て ディスカッションの積極的な参加は高く評価する |
| | 評価 ディスカッションの参加 50% テスト・レポート 50% |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 アジア研究 I-II、ミクロネシア研究 I-II、国際平和学 I、ヨーロッパ研究 I、ラテンアメリカ研究 |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|--------|------|-------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 多民族論 | 後期 | 水3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -前原 直子 | 1年 | ptt756@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 21世紀は一方ですますグローバル化が進み、ヒト・モノ・カネ・情報の地域や国境を越える移動が活発化しているが、他方で、民族や宗教、言語、文化の違いによる対立も目立っている。本授業では、「国民」や「民族」の枠組みがいつ、どのように形成されたか歴史的に振り返り、私たちの差異をめぐる様々な思い込みを内省しつつ、現代日本・沖縄における多文化共生社会への課題を探る。 | 世界の様々な国や日本、そして沖縄の事例をとおして、ナショナリズムやエスニック問題の基礎を学びます。自分で文献を読み、それについてグループで話し合い、学び合い、自分の言葉でまとめ、発表する力を少しずつ育てましょう。 |
| 到達目標 | ①近代国家および「国民」や「民族」の枠組みがいつ、どのように始まったのか理解し、報告することができる。 ②エスニック紛争や対立について、いくつかの事例の歴史的・社会的な背景を理解し、報告することができる。 ③欧米諸国や日本（および沖縄）における多文化主義について、歴史的・社会的な背景を理解し、報告することができる | |

| | | | |
|----------------|--|--------------------|-----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | 文献読み、練習問題 |
| | 2 | 用語の整理：エスニシティ・民族・国民 | 〃 |
| | 3 | 「国民国家」の登場 | 〃 |
| | 4 | ①アメリカ | 〃 |
| | 5 | ②フランス | 〃 |
| | 6 | ③帝国の変容 | 〃 |
| | 7 | ④日本 | 〃 |
| 8 | 中間テスト | 〃 | |
| 9 | 植民地の独立 | 〃 | |
| 10 | エスニック少数派の地位向上運動 | 〃 | |
| 11 | エスニック紛争の広がり | 〃 | |
| 12 | グローバル・マイグレーション | 〃 | |
| 13 | 多文化主義の始まり | 〃 | |
| 14 | 日本版多文化主義とは | 〃 | |
| 15 | 多文化沖縄 | 復習 | |
| 16 | 期末試験 | | |
| テキスト・参考文献・資料など | 塩川伸明『民族とネイション—ナショナリズムという難問』岩波新書 2009年 | | |
| 学びの手立て | ①（正当な理由がない場合の）欠席・遅刻厳禁 ②毎回指定された箇所の文献を読み、プリントの問題に取り組む ③授業で行うグループでの話し合いや発表に取り組む | | |
| 評価 | エッセイ提出・・・30% テスト(中間・期末)・・・70% *出席が3分の2に満たない・中間・期末テストを受けない場合、「不可」となります。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 関連科目：「アジア研究Ⅰ、Ⅱ」 「ミクロネシア研究Ⅰ、Ⅱ」 「国際平和学Ⅰ」 「ヨーロッパ研究Ⅰ」 「ラテンアメリカ研究」 |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性 ミクロネシアに対する理解を通じて、大学生としての必要な教養を深めていく。

[/一般講義]

| | | | | |
|--------|----------------|------|---------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | ミクロネシア研究Ⅰ | 前期 | 水2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -石川 朋子、-親川 志奈子 | 1年 | 原則、授業終了後に教室で受け付けます。 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 現在、ミクロネシア（キリバス、ナウルを除く）と呼ばれている地域は、スペイン、ドイツ、日本、アメリカが統治していた。日本は第一次世界大戦後、国際連盟委任統治領としてこの地域を統治していた。本講義では、ミクロネシアの歴史、生活文化、現代社会について概説し、ミクロネシアと日本の関係について考える。また、ナウル共和国、キリバス共和国と日本の関係にも触れる。 | かつて沖縄から多くの人々が、「移民」としてミクロネシアへ渡り、暮らしていました。当時の在住邦人の6割は沖縄出身者でした。これら「南洋移民」の関係者は、現在でも年一度「慰霊と交流」の度を続けています。本講義をとおしてミクロネシア地域に興味をもってくれることを期待しています。 |
| 到達目標 | ミクロネシアの文化・歴史等について学ぶと同時に日本、特に沖縄との関係を学ぶことができる。ミクロネシアを理解することで、沖縄のことも深く理解することになる。 | |

| | | | |
|----------------|---|-----------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義ガイダンス | |
| 2 | ミクロネシアの概要 | | |
| 3 | ミクロネシアの地理と自然環境 | 関連論文等を紹介する。以下同様 | |
| 4 | ミクロネシアの地理と自然環境 | | |
| 5 | グアム、ハワイ、沖縄と消滅の危機に瀕する言語 | 関連論文等を紹介する。以下同様 | |
| 6 | 言語危機の背景、植民地主義と先住民の権利 | | |
| 7 | ハワイの歴史、言語復興運動、脱植民地化運動 | | |
| 8 | グアムの歴史、言語復興運動、脱植民地化運動 | | |
| 9 | 沖縄の歴史、言語復興運動、脱植民地化運動 | | |
| 10 | グアムのドキュメンタリー映画、ディスカッション | | |
| 11 | グアムのドキュメンタリー映画、ディスカッション | | |
| 12 | ハワイのドキュメンタリー映画、ディスカッション | | |
| 13 | ハワイのドキュメンタリー映画、ディスカッション | | |
| 14 | 沖縄のドキュメンタリー映画、ディスカッション | | |
| 15 | 沖縄のドキュメンタリー映画、ディスカッション | | |
| 16 | テスト | | |
| テキスト・参考文献・資料など | 特になし。講義は、毎回配布するレジュメと資料に沿って行う。参考文献等は講義のなかで適宜紹介する。ビデオ等の画像等も使用する。 | | |
| 学びの手立て | 私語等、講義の妨害になる行為は認めない。 | | |
| 評価 | 講義でのリアクションペーパー等を提出してもらう。それにより出席・講義理解状況等を把握し、レポート、テスト等を総合的に評価する。 | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 関連科目としてミクロネシア研究Ⅱの履修を薦める。 |
|-------|---|

※ポリシーとの関連性 ミクロネシアに対する理解を通じて、大学生としての必要な教養を深めていく。

[/一般講義]

| | | | | |
|--------|-----------|------|---------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | ミクロネシア研究Ⅱ | 後期 | 木2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -石川 朋子 | 1年 | 原則、授業終了後に教室で受け付けます。 | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>ミクロネシアと日本の歴史的な関係は、明治以前までさかのぼることができる。明治以前のミクロネシアと日本の関係は、個人の漂流、捕鯨、交易などであった。官民レベルでミクロネシアに関心をもたれたのは、明治に入ってからである。最も日本とミクロネシアと関係が深くなるのは、第一次世界大戦後である。本講義ではミクロネシアと日本の関係を「南洋移民」を通して考える。</p> | <p>かつて沖縄から多くの人々が、「移民」としてミクロネシアへ渡り、暮らしていました。当時の在住邦人の6割は沖縄出身者でした。これら「南洋移民」の関係者は、現在でも年一度「慰霊と交流」の度を続けています。本講義をとおしてミクロネシア地域に興味をもってくれることを期待しています。</p> |
| 到達目標 | <p>ミクロネシアの文化・歴史等について学ぶと同時に日本、特に沖縄との関係を学ぶことができる。 ミクロネシアを理解することで、沖縄のことも深く理解することができる。</p> | |

| | | | |
|----------------|---|-----------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 講義ガイダンス | |
| | 2 | ミクロネシアの概要 | |
| 3 | ミクロネシアの宗主国の変遷 | 関連論文等を紹介する。以下同様 | |
| 4 | スペイン・ドイツのミクロネシア統治 | | |
| 5 | テスト | | |
| 6 | 日本のミクロネシア統治 | | |
| 7 | 日本の「南洋」関与 | | |
| 8 | 南洋移民の展開Ⅰ | | |
| 9 | 南洋移民の展開Ⅱ | | |
| 10 | 南洋移民の展開Ⅲ | | |
| 11 | ミクロネシアの戦争 | | |
| 12 | テスト | | |
| 13 | 戦後のミクロネシアーアメリカ統治ー | | |
| 14 | ミクロネシアと沖縄 | | |
| 15 | ミクロネシアの現在 | | |
| 16 | テスト | | |
| テキスト・参考文献・資料など | <p>特になし。講義は、毎回配布するレジュメと資料に沿って行う。参考文献等は講義のなかで適宜紹介する。ビデオ等の画像等も使用する。</p> | | |
| 学びの手立て | <p>私語等、講義の妨害になる行為は認めない。</p> | | |
| 評価 | <p>講義でのリアクションペーパー等を提出してもらおう。それにより出席・講義理解状況等を把握し、レポート、テスト等を総合的に評価する。</p> | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>連科目としてミクロネシア研究Ⅰの履修を薦める。</p> |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|-----------|------|--------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | ヨーロッパ研究 I | 前期 | 火 4 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 岡野 薫 | 1年 | k.okano@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | ヨーロッパの人々は東アジアとどのようにかかわり、その地域をどのように理解してきたのでしょうか。この疑問を出発点として中世から現代までの東西交流の歴史をたどります。東西交流史を中心としてヨーロッパ史を理解することが授業のねらいです。なかでも日本と長く、深い関係のあったドイツ語圏を中心に扱います。 | ヨーロッパの人々の異文化理解が授業のテーマです。さまざまな時代、人物の異文化理解にふれてみてください。そして、まったく違う文化を前にして、じぶんだったらどのようにふるまうか考えてみましょう。講義形式の授業ですが、コメントやリアクション・ペーパーの提出を求めています。授業を聴くだけでなく、自分なりの考えをまとめて言語化してください。 |
| 到達目標 | 講義を通じて次のことを学ぶことができます。 ①ヨーロッパと東アジアとの、ひと、ものの交流について具体例を挙げ、それについて説明することができる。 ②異文化理解についてじぶんの見解を述べるができる。 ③東西交流史からドイツ語圏の文化、社会、歴史を理解できる。 | |

| | | | |
|----------------|---|---------------------------|-------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | ガイダンス | シラバスをよく読むこと |
| | 2 | 中世の商人がみた異文化：『東方見聞録』の「日本」 | |
| | 3 | 中世のヨーロッパが描く異国：地図のなかの「日本」 | |
| | 4 | ヨーロッパ文化の底流：「宗教なくして道徳なし」 | |
| | 5 | 信仰分裂と東アジア布教：イエズス会宣教師と日本文化 | |
| | 6 | 日本のキリスト教理解：転びキリシタン | |
| | 7 | 王侯貴族の流行：中国趣味 | |
| 8 | 三十年戦争と異文化への旅：ドイツ語圏の来日者 | | |
| 9 | 近世から近代の異文化理解①：「閉ざされた世界」をめぐって | | |
| 10 | 近世から近代の異文化理解②：「閉ざされた世界」をめぐって | | |
| 11 | 植民地主義時代の日本研究：ドイツ人医師の事件 | | |
| 12 | 現代の日本体験①：不思議の国 | | |
| 13 | 現代の日本体験②：革新と伝統 | | |
| 14 | ドイツと日本：二つの戦後 | | |
| 15 | まとめ | | |
| 16 | 学期末試験 | | |
| テキスト・参考文献・資料など | テキスト：指定しない。 参考文献：坂井榮八郎『ドイツ史10講』（岩波新書、2003、ISBN：978-4004308263） 資料：授業時に随時紹介する。 | | |
| 学びの手立て | 授業でもドイツ史について説明しますが、参考文献に挙げた『ドイツ史10講』を読んでください。授業の内容がよりふかく理解できるようになります。授業時に紹介する本や映画にもふれてください。さまざまな文化、歴史、考え方を通じて視野を広げましょう。 | | |
| 評価 | 平常点（授業参加度，リアクション・ペーパー）40%，学期末試験60% | | |

| | |
|-------|--------------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 関連科目：ヨーロッパ研究 II |
|-------|--------------------------------|

| | | | | |
|--------|----------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | ヨーロッパ研究Ⅱ | 後期 | 水3 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -西 圭介 | 1年 | 授業終了後に教室で受け付けます。 | |

| | | |
|-------|--|------------------------|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 現代の世界経済において中国経済の台頭は著しいものがあるが、20世紀を通じて世界経済の中心は西洋に位置していたと言えるだろう。本授業では、16世紀の銀の流通に始まる西洋を中心としたグローバル化について講義し、それを通じて受講者は経済のグローバル化と西洋の台頭を結び付けて理解できるようになるだろう。 | 本授業では新しい研究成果を中心に講義します。 |
| 到達目標 | 新しい研究成果について知識を深めることによって、変化の激しい現代世界を生き抜くための知識の一端を獲得できる。 | |

| | | | |
|-------|--|----------------------------|----------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | コロンブスによる「新大陸」発見 | 復習 |
| | 2 | 16世紀のグローバルな銀の流通 | 復習 |
| | 3 | 16世紀のグローバルな銀の流通 | 復習 |
| | 4 | ヨーロッパ人によるアジア世界への参入（16世紀から） | 復習 |
| | 5 | ヨーロッパ人と「新大陸」 | 復習 |
| | 6 | ヨーロッパ人と「新大陸」 | 復習 |
| | 7 | ”綿の帝国”① | 復習 |
| 8 | ”綿の帝国”② | 復習 | |
| 9 | 後発工業国：ドイツの工業化① | 復習 | |
| 10 | 後発工業国：ドイツの工業化② | 復習 | |
| 11 | 後発工業国：ドイツの工業化③ | 復習 | |
| 12 | ミシンと近代日本① | 復習 | |
| 13 | ミシンと近代日本② | 復習 | |
| 14 | 自転車部品流通のグローバル化① | 復習 | |
| 15 | 自転車部品流通のグローバル化② | 復習 | |
| 16 | 期末試験 | 復習 | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など 主要な参考文献：Sven Beckert, "Empire of Cotton"、チャールズ・マン『1493』。 | | |
| | 学びの手立て 日本経済新聞など経済誌を読んでください。 | | |
| | 評価 出席点20%、期末試験80%。 | | |

| | |
|-------|-------------------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 ドイツ語関連科目 |
|-------|-------------------------|

| | | | | |
|--------|-----------|------|-------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | ラテンアメリカ研究 | 前期 | 木2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -稲村 幸子 | 1年 | 授業終了後に教室にて受け付けます。 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>ラテンアメリカと呼ばれる広大な地域について、主に地理的・歴史的視点からその共通性と多様性を理解し、現代ラテンアメリカ社会の諸問題に関心を持つことができるように授業を進めていく予定です。現代のラテンアメリカ社会に起こる諸問題について関心を持ち理解を深めることは、世界情勢を正しく知るうえで必要なことです。</p> <p>到達目標 ラテンアメリカ社会でこれまでに起こったさまざまな出来事、そして現在進行形の事象について、地理的・歴史的知識をもとに基本となる用語を適切に用いながら、簡潔で正確な説明ができるようになることを目標とします。</p> | <p>現在の社会は過去の出来事の積み重ねと捉えらると、ラテンアメリカ社会が直面している問題を正しく理解し、さらに未来について考察するには、地域に関する地理的、歴史的知識は不可欠です。</p> |

| 学びの実践 | <p>学びのヒント</p> <p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション ラテンアメリカとは</td><td>授業での到達目標について確認</td></tr> <tr><td>2</td><td>ラテンアメリカについて</td><td>ラテンアメリカに関する知識を確認</td></tr> <tr><td>3</td><td>南アメリカの地理と歴史 (ブラジル)</td><td>ブラジルに関する発展学習</td></tr> <tr><td>4</td><td>ブラジルの地理と歴史</td><td>ブラジルに関する発展学習</td></tr> <tr><td>5</td><td>南アメリカの地理 (ペルー)</td><td>ペルーに関する発展学習</td></tr> <tr><td>6</td><td>中央アメリカの地理 (パナマ)</td><td>パナマに関する発展学習</td></tr> <tr><td>7</td><td>中央アメリカの地理 (コスタリカ)</td><td>コスタリカに関する発展学習</td></tr> <tr><td>8</td><td>先スペイン期の文明 (人類の移動/メソアメリカ文明)</td><td>先スペイン期について発展学習</td></tr> <tr><td>9</td><td>先スペイン期のメソアメリカ文明/アンデス文明</td><td>先スペイン期について発展学習</td></tr> <tr><td>10</td><td>先スペイン期のアンデス文明/「発見」から征服 (スペイン領を中心に)</td><td>紹介の資料を活用し発展学習</td></tr> <tr><td>11</td><td>征服・植民地時代 (スペイン領を中心に)</td><td>紹介の資料を活用し発展学習</td></tr> <tr><td>12</td><td>ラテンアメリカ諸国の独立 (メキシコ)</td><td>メキシコに関する発展学習</td></tr> <tr><td>13</td><td>ラテンアメリカ諸国の独立 (キューバ)</td><td>キューバに関する発展学習</td></tr> <tr><td>14</td><td>ラテンアメリカ諸国の独立 (アルゼンチン)</td><td>アルゼンチンに関する発展学習</td></tr> <tr><td>15</td><td>現代ラテンアメリカの諸問題</td><td>小テストを確認し期末試験の準備</td></tr> <tr><td>16</td><td>期末テスト</td><td></td></tr> </tbody> </table> | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 | 1 | オリエンテーション ラテンアメリカとは | 授業での到達目標について確認 | 2 | ラテンアメリカについて | ラテンアメリカに関する知識を確認 | 3 | 南アメリカの地理と歴史 (ブラジル) | ブラジルに関する発展学習 | 4 | ブラジルの地理と歴史 | ブラジルに関する発展学習 | 5 | 南アメリカの地理 (ペルー) | ペルーに関する発展学習 | 6 | 中央アメリカの地理 (パナマ) | パナマに関する発展学習 | 7 | 中央アメリカの地理 (コスタリカ) | コスタリカに関する発展学習 | 8 | 先スペイン期の文明 (人類の移動/メソアメリカ文明) | 先スペイン期について発展学習 | 9 | 先スペイン期のメソアメリカ文明/アンデス文明 | 先スペイン期について発展学習 | 10 | 先スペイン期のアンデス文明/「発見」から征服 (スペイン領を中心に) | 紹介の資料を活用し発展学習 | 11 | 征服・植民地時代 (スペイン領を中心に) | 紹介の資料を活用し発展学習 | 12 | ラテンアメリカ諸国の独立 (メキシコ) | メキシコに関する発展学習 | 13 | ラテンアメリカ諸国の独立 (キューバ) | キューバに関する発展学習 | 14 | ラテンアメリカ諸国の独立 (アルゼンチン) | アルゼンチンに関する発展学習 | 15 | 現代ラテンアメリカの諸問題 | 小テストを確認し期末試験の準備 | 16 | 期末テスト | |
|--|--|---------------------|------------------|----------|---|---------------------|----------------|---|-------------|------------------|---|--------------------|--------------|---|------------|--------------|---|----------------|-------------|---|-----------------|-------------|---|-------------------|---------------|---|----------------------------|----------------|---|------------------------|----------------|----|------------------------------------|---------------|----|----------------------|---------------|----|---------------------|--------------|----|---------------------|--------------|----|-----------------------|----------------|----|---------------|-----------------|----|-------|--|
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | オリエンテーション ラテンアメリカとは | 授業での到達目標について確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | ラテンアメリカについて | ラテンアメリカに関する知識を確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 南アメリカの地理と歴史 (ブラジル) | ブラジルに関する発展学習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | ブラジルの地理と歴史 | ブラジルに関する発展学習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 南アメリカの地理 (ペルー) | ペルーに関する発展学習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 中央アメリカの地理 (パナマ) | パナマに関する発展学習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 中央アメリカの地理 (コスタリカ) | コスタリカに関する発展学習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 先スペイン期の文明 (人類の移動/メソアメリカ文明) | 先スペイン期について発展学習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 先スペイン期のメソアメリカ文明/アンデス文明 | 先スペイン期について発展学習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 先スペイン期のアンデス文明/「発見」から征服 (スペイン領を中心に) | 紹介の資料を活用し発展学習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 征服・植民地時代 (スペイン領を中心に) | 紹介の資料を活用し発展学習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | ラテンアメリカ諸国の独立 (メキシコ) | メキシコに関する発展学習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | ラテンアメリカ諸国の独立 (キューバ) | キューバに関する発展学習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | ラテンアメリカ諸国の独立 (アルゼンチン) | アルゼンチンに関する発展学習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 現代ラテンアメリカの諸問題 | 小テストを確認し期末試験の準備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 16 | 期末テスト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>毎回の授業でプリントを配布し、テキストは使用しません。 授業の中で内容ごとに文献を紹介し、配布するプリントにも記載するので、それらを参照してください。 参考文献として『物語ラテン・アメリカの歴史—未来の大陸』増田 義郎 中公新書 1998年 を挙げます。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え 授業は講義形式で行います。 毎回、授業内容のまとめと確認のための小テストを行います。その際、時間外学習の内容についてもまとめを書いてもらいますので準備をしておくこと。</p> <p>学びを深めるために 授業の中で紹介された文献や参考となる資料を活用して、さらなる学習に努めてください。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>評価</p> <p>毎回の小テスト52点 (4点×13回) と期末テスト48点の計100点で評価します。 授業の妨げとなる行為は減点の対象になりますので注意してください。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>授業で得た知識や社会問題を考察する力を、地域社会の問題解決に活かせるように努める。</p> |
|-------|---|

| | | | | |
|--------|-----------|------|-------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | ラテンアメリカ研究 | 後期 | 木2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -稲村 幸子 | 1年 | 授業終了後に教室にて受け付けます。 | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい ラテンアメリカと呼ばれる広大な地域について、主に地理的・歴史的視点からその共通性と多様性を理解し、現代ラテンアメリカ社会の諸問題に関心を持つことができるように授業を進めていく予定です。現代のラテンアメリカ社会に起こる諸問題について関心を持ち理解を深めることは、世界情勢を正しく知るうえで必要なことです。 | メッセージ 現在の社会は過去の出来事の積み重ねと捉えらると、ラテンアメリカ社会が直面している問題を正しく理解し、さらに未来について考察するには、地域に関する地理的、歴史的知識は不可欠です。 |
| | 到達目標 ラテンアメリカ社会でこれまでに起こったさまざまな出来事、そして現在進行形の事象について、地理的・歴史的知識をもとに基本となる用語を適切に用いながら、簡潔で正確な説明ができるようになることを目標とします。 | |

| | | | |
|-------|--|------------------------------------|------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション ラテンアメリカとは | 授業での到達目標について確認 |
| | 2 | ラテンアメリカについて | ラテンアメリカに関する知識を確認 |
| | 3 | 南アメリカの地理と歴史 (ブラジル) | ブラジルに関する発展学習 |
| | 4 | ブラジルの地理と歴史 | ブラジルに関する発展学習 |
| | 5 | 南アメリカの地理 (ペルー) | ペルーに関する発展学習 |
| | 6 | 中央アメリカの地理 (パナマ) | パナマに関する発展学習 |
| | 7 | 中央アメリカの地理 (コスタリカ) | コスタリカに関する発展学習 |
| | 8 | 先スペイン期の文明 (人類の移動/メソアメリカ文明) | 先スペイン期について発展学習 |
| | 9 | 先スペイン期のメソアメリカ文明/アンデス文明 | 先スペイン期について発展学習 |
| | 10 | 先スペイン期のアンデス文明/「発見」から征服 (スペイン領を中心に) | 紹介の資料を活用し発展学習 |
| | 11 | 征服・植民地時代 (スペイン領を中心に) | 紹介の資料を活用し発展学習 |
| | 12 | ラテンアメリカ諸国の独立 (メキシコ) | メキシコに関する発展学習 |
| | 13 | ラテンアメリカ諸国の独立 (キューバ) | キューバに関する発展学習 |
| | 14 | ラテンアメリカ諸国の独立 (アルゼンチン) | アルゼンチンに関する発展学習 |
| | 15 | 現代ラテンアメリカの諸問題 | 小テストを確認し期末試験の準備 |
| | 16 | 期末テスト | |
| | テキスト・参考文献・資料など 毎回の授業でプリントを配布し、テキストは使用しません。授業の中で内容ごとに文献を紹介し、配布するプリントにも記載するので、それらを参照してください。参考文献として『物語ラテン・アメリカの歴史—未来の大陸』増田 義郎 中公新書 1998年 を挙げます。 | | |
| | 学びの手立て 履修の心構え 授業は講義形式で行います。 毎回、授業内容のまとめと確認のための小テストを行います。その際、時間外学習の内容についてもまとめを書いてもらいますので準備をしておくこと。 学びを深めるために 授業の中で紹介された文献や参考となる資料を活用して、さらなる学習に努めてください。 | | |
| | 評価 毎回の小テスト52点 (4点×13回) と期末テスト48点の計100点で評価します。授業の妨げとなる行為は減点の対象になりますので注意してください。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 授業で得た知識や社会問題を考察する力を、地域社会の問題解決に活かせるように努める。 |
|-------|--|